

第2次豊橋市環境基本計画改訂版

参考資料

- 1 第2次豊橋市環境基本計画 前期総括
- 2 豊橋市の環境に関するアンケート

目 次

1	第2次豊橋市環境基本計画 前期総括	1
	前期総括について	2
	第2次豊橋市環境基本計画の進捗状況	3
	環境目標Ⅰ 低炭素社会の実現により保全する地球環境	4
	環境目標Ⅱ 多様な生物が生息し、人と共生する自然環境	6
	環境目標Ⅲ 資源を大切にし、循環を基調とする社会環境	8
	環境目標Ⅳ 健全で快適な生活環境	10
	環境目標Ⅴ 環境への意識と知恵をはぐくむ文化環境	12
2	豊橋市の環境に関するアンケート	15
	調査目的	16
	調査区分と概要	16
	調査結果	17
	・市民アンケート	17
	・事業者アンケート	39

1 第2次豊橋市環境基本計画 前期総括

前期総括について

本市では、豊橋市環境基本条例に基づき、環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、平成23年3月に「第2次豊橋市環境基本計画」を策定し、計画の基本理念である「地球の未来 ここから始めよう」の実現に向け、環境の保全や自然との共生に関する様々な取り組みを行ってきました。第2次豊橋市環境基本計画は、平成32年度が目標年度となっており、今年度で策定から5年が経過することから、社会経済情勢や国県の施策の変化等に合わせ、計画の改訂を行います。

この総括は、前期計画期間における取り組みを振り返り、その成果や課題の認識をまとめ、計画の改訂に活用するものです。

第2次豊橋市環境基本計画の進捗状況

環境目標		取り組みの目標 (指標)	基準値A (H21実績)	H32年度 目標値B	H26年度 実績値C	進捗率 (C-A)/(B-A)×100	進捗状況 ※
I	低炭素社会の実現により保全する地球環境	①エコファミリーの登録件数[世帯]	1,493	増加	1,534	>100.0%	◎
		②太陽光発電システム設置量 (住宅、公共施設合計、累計)[kW]	9,449	20,000	31,619	>100.0%	◎
		③1日当たりの公共交通機関利用者数[千人/日]	76	77	77	100.0%	◎
		④電動アシスト自転車普及台数[台]	845	増加	561	<0.0%	△
II	多様な生物が生息し、人と共生する自然環境	①自然環境の保全啓発活動への参加者数[人]	3,487	増加	2,309	<0.0%	△
		②外来魚を駆除した池数(累計)[池]	6	30	25	79.2%	○
		③森林保育作業の参加者数[人]	56	増加	101	>100.0%	◎
		④憩いの場を整備したため池数(累計)[池]	28	29	29	100.0%	◎
		⑤環境保全型農業を実践している農家の割合[%]	18.2	20	30.4	>100.0%	◎
		⑥市民1人当たりの都市公園面積[m ²]	9.77	10	9.96	82.6%	○
III	資源を大切に し、循環を基調とする社会環境	①市民1人が1日出す家庭系ごみの量 (事業所から出るごみを含まない。)[g]	790	727	750	63.5%	○
		②再生家具等の展示・販売会開催数[回]	3	増加	3	0.0%	△
		③リサイクル率[%]	17.1	28	18.3	11.0%	△
		④530運動の参加者数[人]	180,000	増加	175,400	<0.0%	△
		⑤雨水貯留槽設置補助件数(累計)[件]	376	増加	665	>100.0%	◎
IV	健全で快適な生活環境	①環境基準達成率(大気)[%]	93.3	増加	91.1	<0.0%	△
		②工場・事業場への大気浄化啓発件数[件]	54	増加	62	>100.0%	◎
		③環境基準達成率(水質)[%]	90.6	増加	89.6	<0.0%	△
		④工場・事業場排水検査件数[件]	240	増加	117	<0.0%	△
		⑤下水道普及率 (公共下水道、地域下水道合計)[%]	78.8	82.3	80	34.3%	△
		⑥景観形成地区の景観に配慮された建築工事等の件数(累計)[件]	192	増加	283	>100.0%	◎
		⑦公共施設における緑のカーテン設置箇所数[箇所]	28	増加	132	>100.0%	◎
V	環境への意識と知恵をはぐくむ文化環境	①地球温暖化対策出前講座の実施回数[回]	5	増加	17	>100.0%	◎
		②環境イベントの参加者数[人]	10,000	増加	7,800	<0.0%	△
		③地域資源回収実施団体数[団体]	351	増加	358	>100.0%	◎
		④文化財関連イベント・展覧会等の参加者数[人]	61,840	増加	56,944	<0.0%	△
		⑤教育文化施設1日当たりの利用者数[人]	4,241	増加	3,876	<0.0%	△

※進捗状況：◎…進捗率100%以上 ○…進捗率50%以上100%未満 △…進捗率50%未満

環境目標 I

低炭素社会の実現により保全する地球環境

基本施策

- I-1. 環境に配慮したエネルギーの利用促進
- I-2. エコモビリティライフの推進

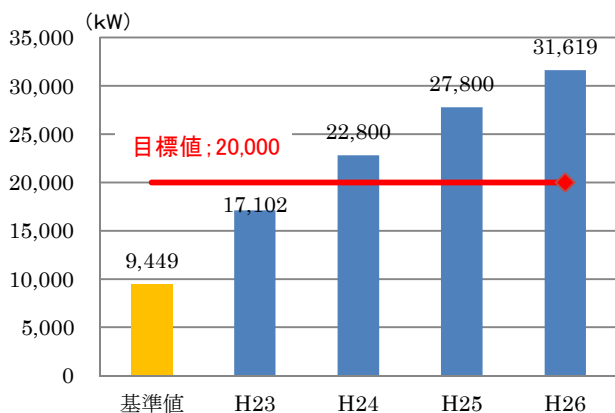
▼目標

地球温暖化対策を進め、二酸化炭素の排出が少ない低炭素社会を実現することにより、恵まれた環境を将来の世代に継承し、地球環境の保全に寄与することを目指します。

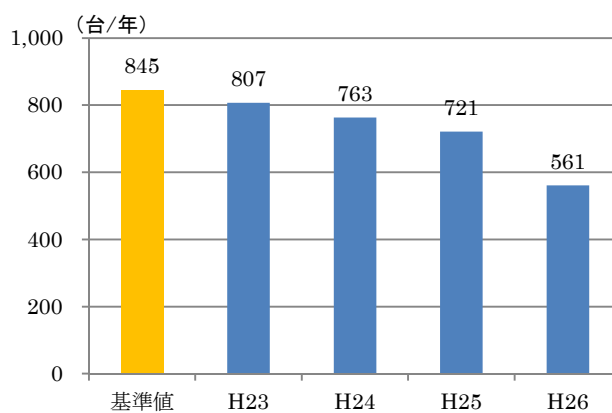
取り組みの目標	基準値	目標値	H23	H24	H25	H26	進捗状況
エコファミリー登録件数[世帯]	1,493	増加	2,148	2,096	1,945	1,534	◎
太陽光発電システム設置量 (住宅、公共施設合計) [kW]	9,449	20,000	17,102	22,800	27,800	31,619	◎
1日当たりの公共交通機関利用者数[千人]	76	77	75	75	77	77	◎
電動アシスト自転車普及台数[台]	845	増加	807	763	721	561	△

※進捗状況：◎…進捗率 100%以上、○…進捗率 50%以上 100%未満、△…進捗率 50%未満

太陽光発電システム設置量（累計）



電動アシスト自転車普及台数



■環境目標 I の総括評価

取り組みの目標の達成状況や具体的な取り組みの実施状況等から総合的に判断して評価

(A：成果が上がった B：概ね成果が上がった C：あまり成果が上がらなかった D：成果が上がらなかった)

A

■後期改訂版の策定に向けて（後期計画期間：平成 28 年度～32 年度）

地球温暖化対策を進めるためには、市自らの率先的な取り組みのほか、市民・事業者と連携しながらそれぞれの役割を果たすとともに、変化する社会情勢に的確に対応していく必要があり、今後は次のような取り組みを進めていきます。

- ・ 公共施設及び住宅の省エネ化推進や次世代自動車等の普及促進
- ・ 太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーの導入拡大と支援
- ・ 中島処理場でのバイオマス資源活用事業の推進
- ・ 地域の実情にあわせた公共交通の確保及び利用促進
- ・ 自転車利用の環境整備や安全利用の促進等による自転車活用の推進。

▼取組状況

I-1. 環境に配慮したエネルギーの利用促進

【取り組みの目標の進捗状況】

- ①「エコファミリーの登録件数」については、環境部各課の補助などと連携し、エコファミリー世帯への登録を促すことで順調に登録件数を伸ばした。
- ②「太陽光発電システム設置量（住宅、公共施設合計）」については、固定価格買取制度など国の再生可能エネルギー導入促進策もあり、住宅用の太陽光発電の設置が大幅に進んだ。

【具体的な取組の実施状況】

- ・環境配慮型のごみ収集車の導入事業において、収集車の更新時にハイブリッド車を導入するなど、環境へ配慮したごみ収集を実施することができた。
- ・エコファミリー制度の実施事業においては、エコファミリー登録が太陽光補助金等の交付や節電チャレンジキャンペーン等の参加の条件となっていることから、補助金申請者やキャンペーン参加者の増加に伴い、登録件数も大幅に増加し、市民の環境に対する意識啓発を進めた。
- ・省エネ型の道路照明灯・公園照明灯の設置事業において、平成26年度よりLED街灯の設置を開始し、道路照明灯では191基、公園照明灯では21基をLED街灯へ切り替え、省エネ化を図った。
- ・公共施設における環境配慮型建築の推進事業において、施設改修時に積極的に省エネ型のLED照明化を進めた。また、再生可能エネルギーの太陽光発電設備を3箇所を設置したことに加え、木造建築物の建設により低炭素化を図った。

I-2. エコモビリティライフの推進

【取り組みの目標の進捗状況】

- ①「1日当たりの公共交通機関利用者数」は、鉄道利用者は若干減少したものの、路面電車及び路線バス並びに「地域生活」バス・タクシーの利用者は増加したため、目標を達成した。
- ②「電動アシスト自転車普及台数」は、補助制度開始（平成22年度）から5年が経過し、普及延べ台数は4,000台近くとなったが、普及に一定の落ち着きが生じてきたことから、徐々に件数が減少してきた。

【具体的な取組の実施状況】

- ・総合交通計画（都市交通マスタープラン）を策定するとともに、モビリティマネジメントや公共交通利用促進イベントの実施、「地域生活」バス・タクシーの運行など、公共交通の利用促進を図った。
- ・エコ通勤制度を導入し、市職員の通勤における自動車利用の抑制を推進するとともに、事業者にも取り組んでもらうよう自転車通勤促進セミナー等により啓発を行った。
- ・自転車の利用を促進するため、市民の意識啓発に努めるとともに、自転車歩行者道の設置や自転車通行空間の整備等を行った。

環境目標Ⅱ

多様な生物が生息し、人と共生する自然環境

基本施策

Ⅱ-1. 生物多様性の保全

Ⅱ-2. 森林の保全と利用の促進

Ⅱ-3. 河川・海岸・ため池の保全

Ⅱ-4. 農地の保全

Ⅱ-5. 水と緑のネットワークの充実

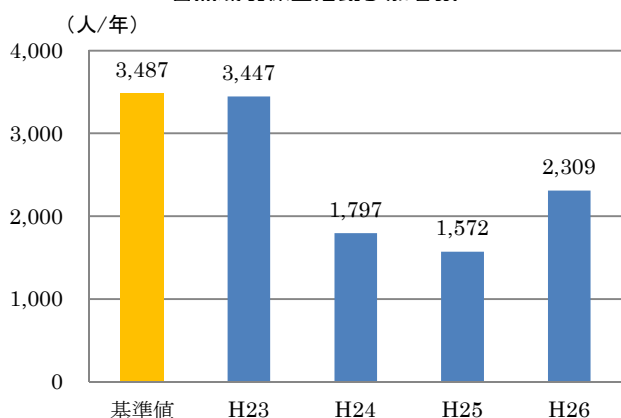
▼目標

私たちの暮らしに様々な恩恵をもたらすこの自然環境を、かけがいのないものとして将来にわたって保全し、人と自然が共生できる社会を目指します。

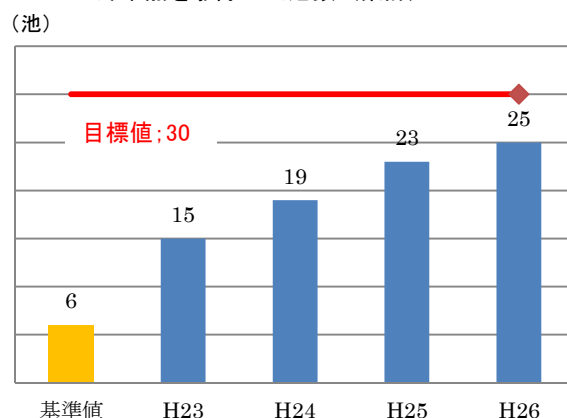
取り組みの目標	基準値	目標値	H23	H24	H25	H26	進捗状況
自然環境の保全啓発活動への参加者数 [人]	3,487	増加	3,447	1,797	1,572	2,309	△
外来魚を駆除した池数[池]	6	30	15	19	23	25	○
森林保育作業の参加者数[人]	56	増加	114	100	114	101	◎
憩いの場を整備したため池数[池]	28	29	29	29	29	29	◎
環境保全型農業を実践している農家の割合 [%]	18.2	20	27.3	28.1	28.4	30.4	◎
市民1人当たりの都市公園面積[m ²]	9.77	10	9.86	9.89	9.95	9.96	○

※進捗状況：◎…進捗率 100%以上、○…進捗率 50%以上 100%未満、△…進捗率 50%未満

自然環境保全活動参加者数



外来魚を駆除した池数 (累計)



■環境目標Ⅱの総括評価

取り組みの目標の達成状況や具体的な取り組みの実施状況等から総合的に判断して評価

(A: 成果が上がった B: 概ね成果が上がった C: あまり成果が上がらなかった D: 成果が上がらなかった)

A

■後期改訂版の策定に向けて (後期計画期間: 平成 28 年度~32 年度)

市民の生態系の保全に対する意識を高め、自然環境の保全と生物多様性を推進していくには、環境教育、啓発活動及び自然環境保全対策を継続するとともに、自然とのふれあいの場の確保やふれあう機会を提供することが重要です。こうしたことから、今後は次のような取り組みを進めていきます。

- ・ 生物多様性の保全と外来生物対策
- ・ 継続的な森林整備の実施
- ・ 市民が気軽に自然とふれあえる水辺環境の保全
- ・ 耕作放棄地対策と優良農地の確保
- ・ 自然とのふれあいの場を確保するための取り組みの実施

▼取組状況

Ⅱ-1. 生物多様性の保全

【取り組みの目標の進捗状況】

- ①「自然環境の保全啓発活動への参加者数」は、小学校訪問授業数が伸び悩んだことにより、目標には至らなかった。
- ②「外来魚を駆除した池数」は、ため池施設点検や工事に伴う池干しの際に外来魚駆除を実施したため増加した。

【具体的な取組の実施状況】

- ・葦毛湿原で湿原植生分布調査、植生回復施策、観察会等を実施するとともに、大規模植生回復作業を行い、カガシラ、ヒメミミカキグサ等の地上絶滅していた植物を復活することができた。また、葦毛湿原調査員により追跡調査、外来種除去を行った。
- ・ナガバノイシモチソウ植生調査事業において、ナガバノイシモチソウ調査員により、通年で散水と除草等の環境整備が行われた。また、大規模植生回復作業を行ったことにより、自生個体数が増え、平成23年度の約4倍になった。

Ⅱ-2. 森林の保全と利用の促進

【取り組みの目標の進捗状況】

- ①「森林保育作業の参加者数」は、間伐面積が確保でき、また間伐ボランティアの活動が活性化してきたため進捗した。

【具体的な取組の実施状況】

- ・間伐が遅れている人工林に対して補助金を交付し、間伐を進めるとともに、山林対象者に対して森林の除間伐、手入れなど森林管理講座を開催し、管理意識の向上、技術向上を支援した。

Ⅱ-3. 河川・海岸・ため池の保全

【取り組みの目標の進捗状況】

- ①「憩の場を整備したため池数」は、平成23年度工事にて、反茂池の憩の場の整備が完了し、目標値に達した。

【具体的な取組の実施状況】

- ・干潟再生実験プロジェクトにより、干潟の重要性を学びながら、水辺環境の創出のための基礎調査を行った。また、次のステップとして、平成26年度からは干潟保全実践プロジェクトにより、干潟の観察や生物調査、ごみ拾い等により、干潟への理解を深める取り組みを行っている。

Ⅱ-4. 農地の保全

【取り組みの目標の進捗状況】

- ①「環境保全型農業を実践している農家の割合」は、エコファーマーとして愛知県知事の認定を受けることにより、農業改良資金（無利子資金）の貸付けに関する特例を受けられることもあり進捗した。

【具体的な取組の実施状況】

- ・ファーマーズマーケットを拠点とした食農教育を進めるとともに、農業団体や地元市場、小売店が連携して行うプロモーション事業を支援した。また、農業団体や学校給食関係者との連携により、地元産農産物の使用頻度が増加した。

Ⅱ-5. 水と緑のネットワークの充実

【取り組みの目標の進捗状況】

- ①「市民1人当たりの都市公園面積」は、公園を新設したり、共用部分を拡大したため増加した。

【具体的な取組の実施状況】

- ・新吉保育園や向山保育園、牛川育英幼稚園、植田小学校、大村小学校などの園庭・校庭の芝生化を行った。また、多くの園児・保護者の参加のもと、芝生のポット苗の移植作業も実施するなど、学校と地域が一体となって事業を行うことができた。

環境目標Ⅲ

資源を大切にし、循環を基調とする社会環境

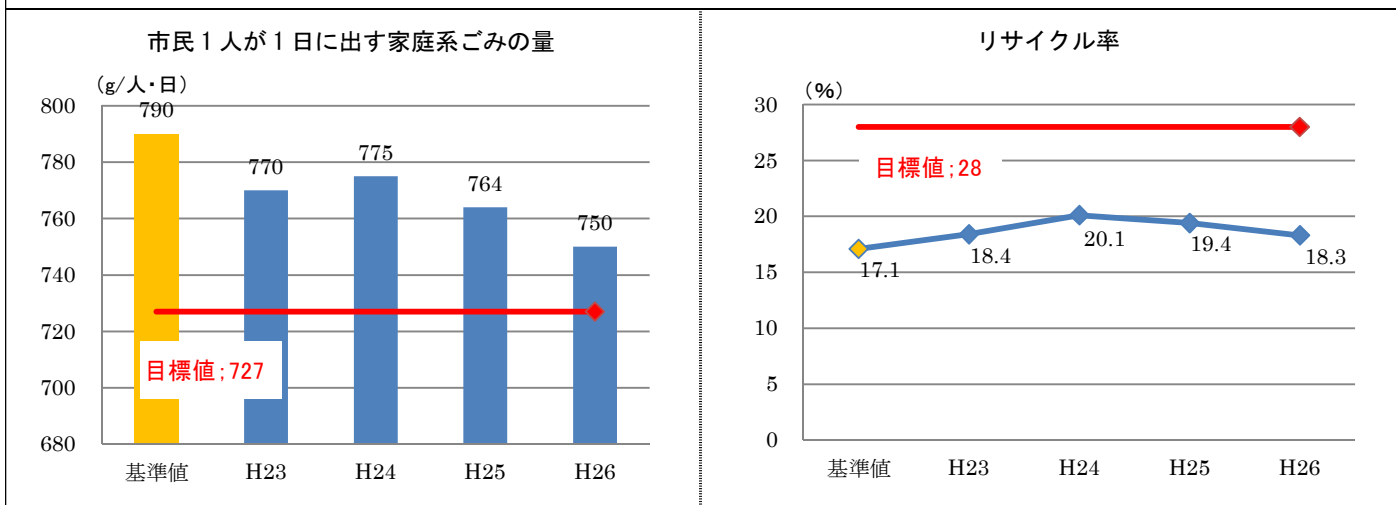
基本施策	Ⅲ-1. ごみ減量の推進	Ⅲ-4. 水資源の節約と有効利用
	Ⅲ-2. リユース・リサイクルの推進	
	Ⅲ-3. 環境美化活動の促進	

▼目標

廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用及び資源の有効利用を進め、持続的な発展が可能となるよう循環を基調とする社会環境の形成を目指します。

取り組みの目標	基準値	目標値	H23	H24	H25	H26	進捗状況
市民1人が1日に出す家庭系ごみの量 (事業所から出るごみを含まない。)[g]	790	727	770	775	764	750	○
再生家具等の展示・販売会開催数[回]	3	増加	3	3	3	3	△
リサイクル率[%]	17.1	28	18.4	20.1	19.4	18.3	△
530運動の参加者数[人]	180,000	増加	175,000	175,000	174,500	175,400	△
雨水貯留槽設置補助件数[件]	376	増加	492	567	616	665	◎

※進捗状況：◎…進捗率 100%以上、○…進捗率 50%以上 100%未満、△…進捗率 50%未満



■環境目標Ⅲの総括評価

取り組みの目標の達成状況や具体的な取り組みの実施状況等から総合的に判断して評価

(A：成果が上がった B：概ね成果が上がった C：あまり成果が上がらなかった D：成果が上がらなかった)

C

■後期改訂版の策定に向けて（後期計画期間：平成28年度～32年度）

ごみ減量・リサイクルの推進、効率的で環境負荷の低い廃棄物処理を進めるためには、市民・事業者とごみについて問題意識を共有し、連携・協力しながら、効率的・効果的なごみ減量施策に取り組んでいく必要があります。こうしたことから、今後は次のような取り組みを進めていきます。

- ・ごみ減量・リサイクル施策の更なる推進
- ・資源化センターのごみ処理広域化の推進及び施設の更新
- ・生ごみ分別に伴うごみ分別処理体系の見直し
- ・市民・事業者などによる自発的な環境美化活動である530運動の更なる推進
- ・限りある水資源の保全と確保

▼取組状況

Ⅲ-1. ごみ減量の推進

【取り組みの目標の進捗状況】

- ①「市民1人が1日に出す家庭系ごみの量」は、ごみ減量やリサイクルの啓発等により、市民のごみ減量意識の高まりがみられ減少している。

【具体的な取組の実施状況】

- ・環境にやさしい店登録制度では、包装を簡素化したり、リサイクル品の販売をするなど、ごみ減量・リサイクルに積極的に取り組む店舗を「豊橋市ごみ減量リサイクル推進店」として認定しているが、登録店舗数は減少傾向にある。今後は市内事業所へのさらなる制度の周知が必要である。

Ⅲ-2. リユース・リサイクルの推進

【取り組みの目標の進捗状況】

- ①「再生家具等の展示・販売会開催数」については、平成26年度の開催数は増加していないが、売却点数については平成21年度と比べ1.8倍に増加している。今後も、再生家具等の展示・販売会を通じて、一層の意識啓発を図る。
- ②「リサイクル率」は、ごみ分別やリサイクルの啓発、剪定枝リサイクル施設の稼働などにより上昇傾向にあるが、スラグの有効利用量の減少や地域資源回収量の減少などにより、伸び悩んでいる。

【具体的な取組の実施状況】

- ・家畜糞尿処理施設の整備事業においては、施設の普及を図るため環境指導等の農家訪問時等に制度の説明を行うことに加え、施設の修繕費に対する補助制度を設け、環境対策に取り組む農家を支援した。
- ・広報とよはしにごみに関する記事をシリーズ化して掲載するとともに、出前講座を積極的に実施するなど、市民の意識啓発に努めた。

Ⅲ-3. 環境美化活動の促進

【取り組みの目標の進捗状況】

- ①「530運動の参加者数」は、530運動環境協議会の全活動人数となっているが、「環境フェスタ」と同時開催していた「バスの日」がなくなったことにより減少した。

【具体的な取組の実施状況】

- ・平成27年度の530運動40周年に向けて、環境フェスタのイベント内容の充実や他の環境イベントとの連携、環境映像コンテンツなどにより、一層の環境啓発に努めた。

Ⅲ-4. 水資源の節約と有効利用

【取り組みの目標の進捗状況】

- ①「雨水貯留槽設置補助件数」は、東日本大震災を受けて、緊急時における水確保の重要性への関心がより高まっており目標に達した。

【具体的な取組の実施状況】

- ・雨水利用設備を設置してある学校において適切な維持管理を行うとともに、新たに「くすのき特別支援学校」に雨水利用設備を設置した。
- ・総合動植物公園において、園内の処理水を水洗便所や獣舎の洗浄水、植物のかん水として再利用した。

環境目標Ⅳ

健全で快適な生活環境

基本施策	IV-1. 大気環境の保全及び騒音・振動・悪臭の防止	IV-4. ヒートアイランド対策の推進
	IV-2. 水環境及び土壌・地盤環境の保全	
	IV-3. ゆとりある生活空間の創出	

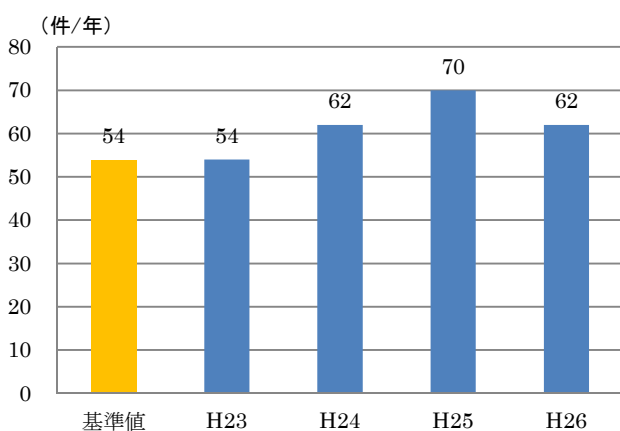
▼目標

大気汚染や騒音・振動、水質汚濁、有害化学物質による汚染などに対する監視や防止対策を進め、私たちの生活環境を保全するとともに、健全で快適なゆとりある生活空間を創出することを目指します。

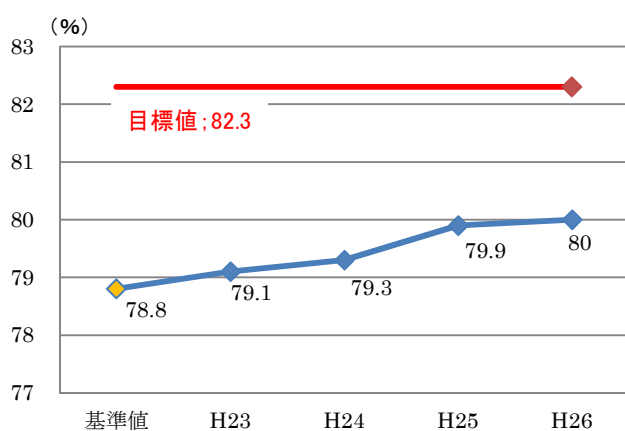
取り組みの目標	基準値	目標値	H23	H24	H25	H26	進捗状況
環境基準達成率（大気）[%]	93.3	増加	88.6	94.4	88.9	91.1	△
工場・事業場への大気浄化啓発件数[件]	54	増加	54	62	70	62	◎
環境基準達成率（水質）[%]	90.6	増加	90.6	86.5	89.6	89.6	△
工場・事業場排水検査件数[件]	240	増加	213	229	212	117	△
下水道普及率 （公共下水道、地域下水道合計）[%]	78.8	82.3	79.1	79.3	79.9	80	△
景観形成地区の景観に配慮された建築工事等の件数[件]	192	増加	228	246	264	283	◎
公共施設における緑のカーテン設置箇所数[箇所]	28	増加	39	118	132	132	◎

※進捗状況：◎…進捗率 100%以上、○…進捗率 50%以上 100%未満、△…進捗率 50%未満

工場・事業場への大気浄化啓発件数



下水道普及率（公共下水道、地域下水道合計）



■環境目標Ⅳの総括評価

取り組みの目標の達成状況や具体的な取り組みの実施状況等から総合的に判断して評価

(A：成果が上がった B：概ね成果が上がった C：あまり成果が上がらなかった D：成果が上がらなかった)

C

■後期改訂版の策定に向けて（後期計画期間：平成28年度～32年度）

健全で快適なゆとりある生活空間を創出するためには、大気環境・水環境等の保全を進めるとともに、周辺環境と調和した良好な景観形成を推進する必要があります。こうしたことから、今後は次のような取り組みを進めていきます。

- ・ダイオキシン類の発生抑制や有害化学物質の使用抑制・適正管理
- ・河川や海域、地下水などの継続的な水質調査
- ・景観形成地区における景観整備事業の推進
- ・街路樹の整備、公共施設の屋上緑化・壁面緑化などの都市緑化の推進

▼取組状況

IV-1. 大気環境の保全及び騒音・振動・悪臭の防止

【取り組みの目標の進捗状況】

- ①「環境基準達成率（大気）」は、平成24年度よりPM2.5の測定を開始しており、平成26年度は5地点で測定したが、そのうち3地点で環境基準を達成しなかったため現時点では目標に達していない。
- ②「工場・事業場への大気浄化啓発件数」は、立入調査について、調査体制を強化して実施したことにより目標に達した。

【具体的な取組の実施状況】

- ・大気汚染、水質汚濁、騒音・振動・悪臭等による公害を防除する施設を設置する事業者に対して設置費の一部を助成する公害防除施設整備事業においては事業者からの助成の希望が無く実績がなかった。
- ・飲食店等の深夜営業騒音防止の指導・啓発事業において、従来から新規出店者への説明会を継続的に実施してきた結果、深夜営業のカラオケ騒音の苦情が減少した。

IV-2. 水環境及び土壌・地盤環境の保全

【取り組みの目標の進捗状況】

- ①「環境基準達成率（水質）」については、平成24年度に地下水の測定地点を業務の見直しにより2地点減らしたため、環境基準を達成した地点数の割合は目標を下回った。（未達成地点数は変化なし。）
- ②「工場・事業場排水検査件数」については、効率的な事業場監視指導を行うため、採水を伴う立入検査の規制対象事業場への立入回数を毎年度から隔年度実施に見直し、基準超過している事業場への指導を重点的に実施したため、件数が減少した。
- ③「下水道普及率（公共下水道、地域下水道合計）」は、大岩・二川地区及び前芝地区等の下水道整備を進めたため増加しているが、目標を下回っている。

【具体的な取組の実施状況】

- ・公共用水域及び地下水の水質監視調査や、地下水等における有害化学物質の調査、ダイオキシン類環境調査等を行うとともに、工場・事業場へ立ち入り、水質・土壌の監視・指導を行うなど、生活環境の保全に努めた。
- ・地域住民の快適かつ良好な生活環境を保全するため、臨海部進出企業等と公害防止協定を締結した。

IV-3. ゆとりある生活空間の創出

【取り組みの目標の進捗状況】

- ①「景観形成地区の景観に配慮された建築工事等の件数」は、主に二川宿景観形成地区の建築工事が進んだことから目標に達した。

【具体的な取組の実施状況】

- ・土地区画整理事業において、市施行の牟呂坂津地区及び、組合施行の牛川西部地区、柳生川南部地区の3地区で、各事業計画に沿った宅地や道路の整備を行った。
- ・都市公園の整備や街路樹の植栽、老朽街路樹の更新、民有地の緑化へ助成などにより、うるおいのある美しい都市空間の形成を図った。

IV-4. ヒートアイランド対策の推進

【取り組みの目標の進捗状況】

- ①「公共施設における緑のカーテン設置箇所数」は、市の施設へ幅広く呼び掛けを行い、普及を拡大し、設置箇所が増加した。

【具体的な取組の実施状況】

- ・緑のカーテンの普及啓発事業において、緑のカーテン講習会を引き続き実施するとともに、さくらピアでは、地域と協働して実施する点が評価され、環境省のグリーンカーテンプロジェクト2014に取り上げられた。また、学校への緑のカーテンの設置について、児童生徒に緑のカーテンの興味を持たせ、二酸化炭素の削減など地球温暖化についての理解を深めることができた。

環境目標 V

環境への意識と知恵をはぐくむ文化環境

基本施策

- V-1. 環境に関する教育啓発の推進
- V-2. 環境保全活動の推進
- V-3. 文化の継承と活用

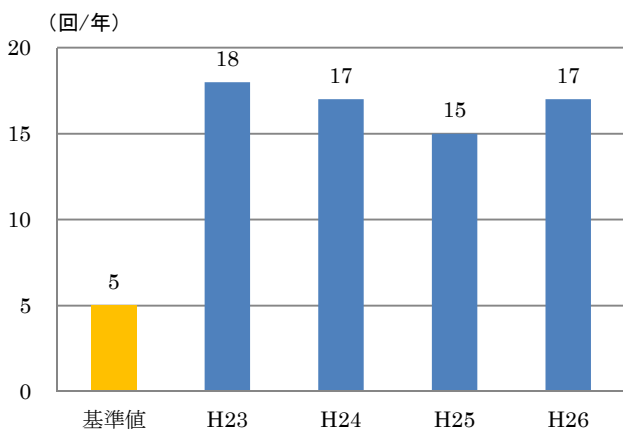
▼目標

環境保全に関する教育や啓発を進めることで、私たち一人ひとりの環境に対する意識を高めるとともに、市民活動などを通じて地域の文化を守り、継承し、自然や将来世代を思いやる知恵をはぐくむ文化環境の形成を目指します。

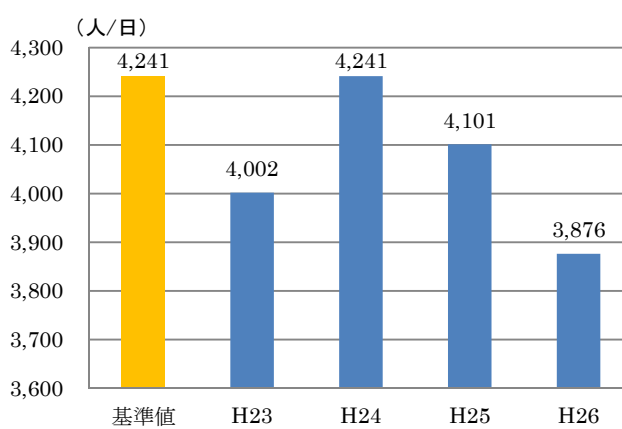
取り組みの目標	基準値	目標値	H23	H24	H25	H26	進捗状況
地球温暖化対策出前講座の実施回数 [回]	5	増加	18	17	15	17	◎
環境イベントの参加者数[人]	10,000	増加	5,000	6,000	7,000	7,800	△
地域資源回収実施団体数[団体]	351	増加	358	357	386	358	◎
文化財関連イベント・展覧会等の参加者数 [人]	61,840	増加	72,903	69,895	56,300	56,944	△
教育文化施設 1日当たりの利用者数[人]	4,241	増加	4,002	4,241	4,101	3,876	△

※進捗状況：◎…進捗率 100%以上、○…進捗率 50%以上 100%未満、△…進捗率 50%未満

地球温暖化対策出前講座の実施回数



教育文化施設 1日当たりの利用者数



■環境目標 V の総括評価

取り組みの目標の達成状況や具体的な取り組みの実施状況等から総合的に判断して評価

(A：成果が上がった B：概ね成果が上がった C：あまり成果が上がらなかった D：成果が上がらなかった)

C

■後期改訂版の策定に向けて（後期計画期間：平成 28 年度～32 年度）

身近にある自然や文化を守り、継承する心を醸成するためには、環境保全に関する教育や啓発を進めるとともに、文化財の調査と保存、活用を進めていく必要があります。こうしたことから、今後は次のような取り組みを進めていきます。

- ・あらゆる世代の人に環境について学んでもらえるような環境学習の展開
- ・より多くの市民が環境保全活動に参加できる環境づくりの推進
- ・歴史的遺産や伝統文化等に触れられる機会の提供
- ・郷土への誇りや愛着を育てる郷土学習の推進

▼取組状況

V-1. 環境に関する教育啓発の推進

【取り組みの目標の進捗状況】

- ①「地球温暖化対策出前講座の実施回数」は、学校版の出前講座を開催し、多くの学校からの申し込みがあったことから目標に達した。
- ②「環境イベントの参加者数」は、同時開催の「とよはしバスの日」が平成 22 年度で終了し、「ええじゃないかカーフリーデー」として形を変えて開催しているが、カーフリーデーの参加者数が大幅に減少したため、全体として減少した。

【具体的な取組の実施状況】

- ・木の香る学校づくり推進事業において、5 カ年計画で市内の小学校 6 年生の教室に、東三河産木材を使用した机・椅子を導入し、その他図書閲覧用木製机も導入した。また、説明会や研修を通じて児童や職員らへ森林の役割や環境保全の重要性を伝え啓発を図った。

V-2. 環境保全活動の推進

【取り組みの目標の進捗状況】

- ①「地域資源回収実施団体数」は、奨励金制度を見直すことにより、団体の動機付けを向上させた。複数の町自治会を校区単位でまとめて集計できるようしたが、従来と同様の集計方法では 358 団体となり、目標に達した。

【具体的な取組の実施状況】

- ・豊橋サイエンスコアとの連携事業においては、平成 25 年度に稼動した高塚町地内の太陽光発電施設の継続的な運用に加え、二川町地内に市民の出資による太陽光発電施設を整備した。(稼動は H27 年 4 月)

V-3. 文化の継承と活用

【取り組みの目標の進捗状況】

- ①「文化財関連イベント・展覧会等の参加者数」は、美術博物館の増築工事により展示室を閉鎖し展覧会が開催できなかった期間があったこと、また、「大名行列」が天候不良で参加者が減少したこともあり、目標を達成できなかった。
- ②「教育文化施設 1 日当たりの利用者数」は、図書館においてはスマートフォン等の情報メディアの急速な普及により、若年層を中心とした読書離れが進み、図書館利用者が減少した。美術博物館においては、美術博物館の増築工事のため、平成 26 年 11 月に 1 階展示室を 1 か月間閉室し、展覧会が開催できなかったため、入館者数が減少し、目標を達成できなかった。

【具体的な取組の実施状況】

- ・新たに市文化財を指定したほか、国登録文化財を 1 件追加した。また、市指定天然記念物「野依八幡社のシダレザクラ」の樹勢回復、県指定有形文化財「花鳥山水図」などの保存修理に補助を行った。
- ・豊橋素人歌舞伎保存会や吉田文楽保存会に対して補助金を助成し、伝統芸能の保存や後継者の育成をするとともに、市指定の無形民俗文化財の保存、振興に努めた。

2 豊橋市の環境に関するアンケート

1 調査目的

「第2次豊橋市環境基本計画」の改訂にあたり、豊橋市の環境に関する市民、事業者の意見や要望を把握し、改訂に役立てることを目的として実施しました。

2 調査区分と概要

(1) 調査区分

- ①市民アンケート (P.17～38)
- ②事業者アンケート (P.39～57)

(2) 調査概要

項目	内容
調査年度	平成26年度
調査対象者	1. 調査地域 豊橋市全域 2. 調査対象 ①豊橋市在住の満20歳以上の男女 ②豊橋市所在の事業者 3. 標本数 ①3,000本 ②400本 4. 抽出方法 ①住民基本台帳から等間隔無作為抽出 ②主要な事業者を抽出
調査方法	郵送配布、郵送回収
調査期間	①平成26年11月18日～平成26年12月8日 ②平成26年11月27日～平成26年12月19日
回収状況	①回収 1,217件 回収率 40.6% (前回 H21…42.5%) ②回収 163件 回収率 40.8% (前回 H21…53.5%)

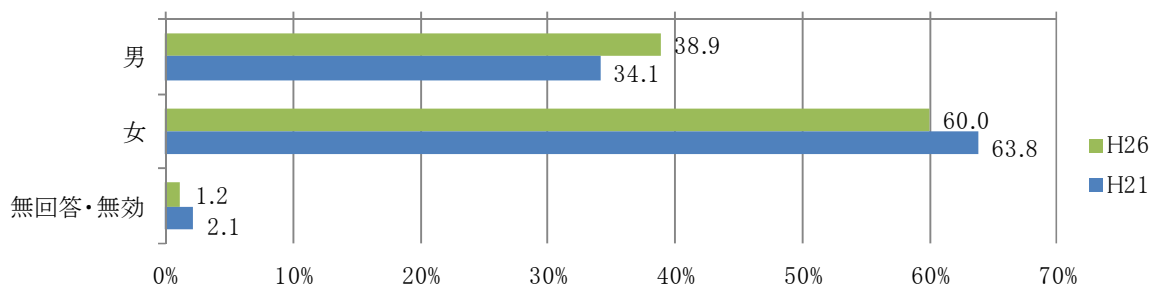
3 調査結果

(1) 市民アンケート

■ あなたご自身のことについておたずねします

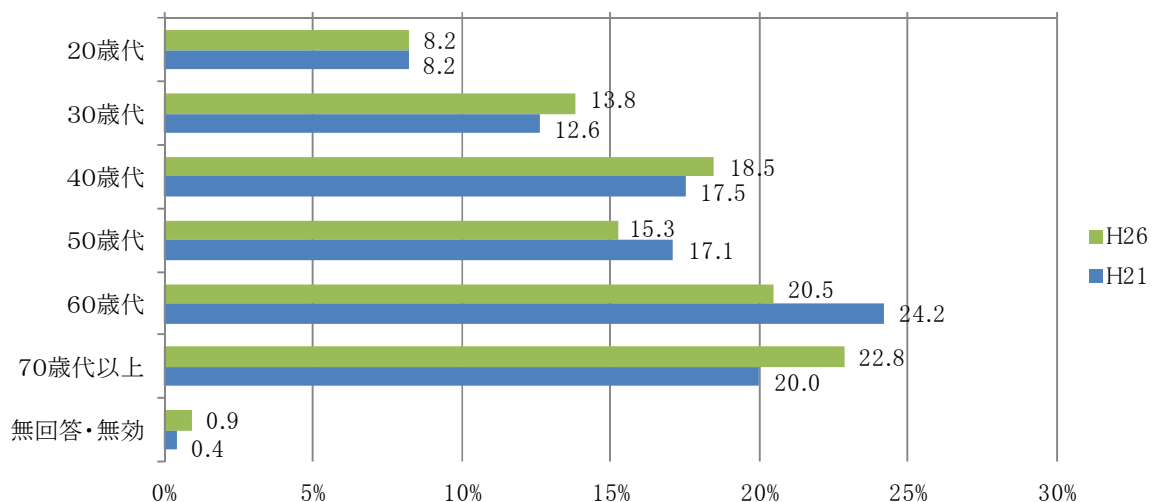
1) あなたの性別は

選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
男	473 件	38.9%	34.1%
女	730 件	60.0%	63.8%
無回答・無効	14 件	1.1%	2.1%
計	1,217 件	100.0%	100.0%



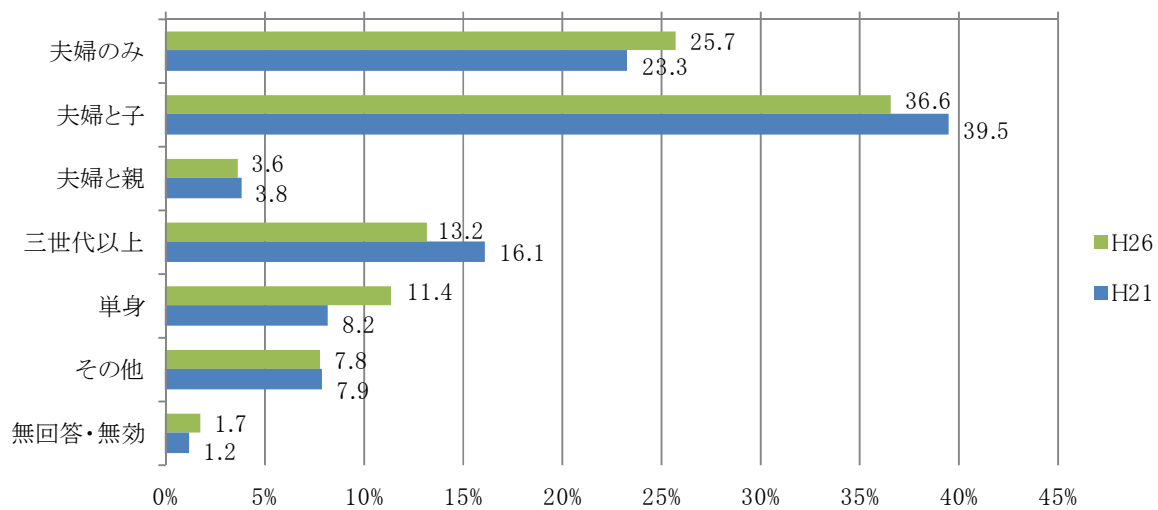
2) あなたの年代は

選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
20歳代	100 件	8.2 %	8.2%
30歳代	168 件	13.8 %	12.6%
40歳代	225 件	18.5 %	17.5%
50歳代	186 件	15.3 %	17.1%
60歳代	249 件	20.5 %	24.2%
70歳代以上	278 件	22.8 %	20.0%
無回答・無効	11 件	0.9 %	0.4%
計	1,217 件	100.0 %	100.0%



3) あなたの家族構成は

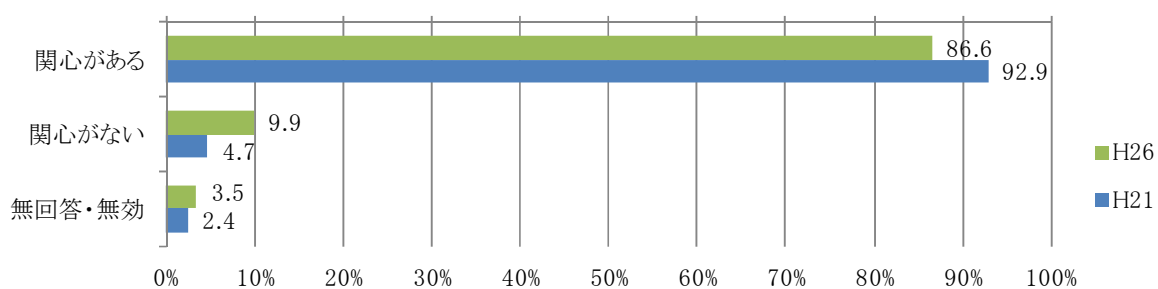
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
夫婦のみ	313 件	25.7%	23.3%
夫婦と子	445 件	36.6%	39.5%
夫婦と親	44 件	3.6%	3.8%
3世代以上	161 件	13.2%	16.1%
単身	139 件	11.4%	8.2%
その他	95 件	7.8%	7.9%
無回答・無効	20 件	1.7%	1.2%
計	1,217 件	100.0%	100.0%



■ 環境全般のことについておたずねします

問1 あなたは、環境の保全や環境問題に関心がありますか

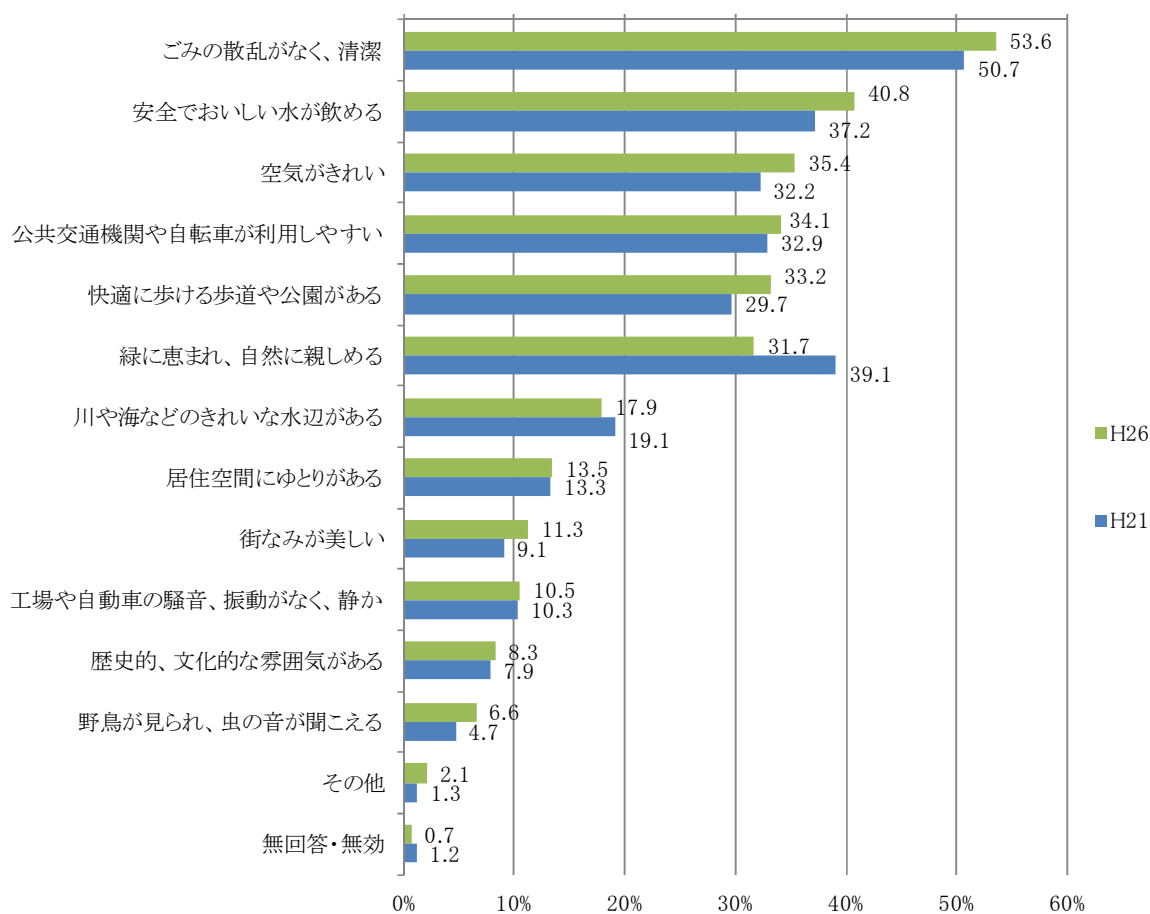
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
関心がある	1,055 件	86.6%	92.9%
関心がない	120 件	9.9%	4.7%
無回答・無効	42 件	3.5%	2.4%
計	1,217 件	100.0%	100.0%



「環境に関心がある」と回答した人が 86.6%と、市民の環境への関心の高さがうかがえる。しかし、前回と比較すると 6.3ポイント減少しており、環境意識の低下が見受けられる。

問2 将来、豊橋がどのような環境のまちになれば良いと思いますか【3つまで】

選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
ごみの散乱がなく、清潔	652 件	53.6%	50.7%
安全でおいしい水が飲める	496 件	40.8%	37.2%
空気がきれい	431 件	35.4%	32.2%
公共交通機関や自転車が利用しやすい	415 件	34.1%	32.9%
快適に歩ける歩道や散歩道、よく利用できる公園がある	404 件	33.2%	29.7%
緑に恵まれ、自然に親しめる	386 件	31.7%	39.1%
川や海などのきれいな水辺がある	218 件	17.9%	19.1%
居住空間にゆとりがある	164 件	13.5%	13.3%
街なみが美しい	137 件	11.3%	9.1%
工場や自動車の騒音、振動がなく、静か	128 件	10.5%	10.3%
歴史的、文化的な雰囲気がある	101 件	8.3%	7.9%
野鳥が見られ、虫の音が聞こえる	80 件	6.6%	4.7%
その他	26 件	2.1%	1.3%
無回答・無効	9 件	0.7%	1.2%
計	3,647 件	-	-

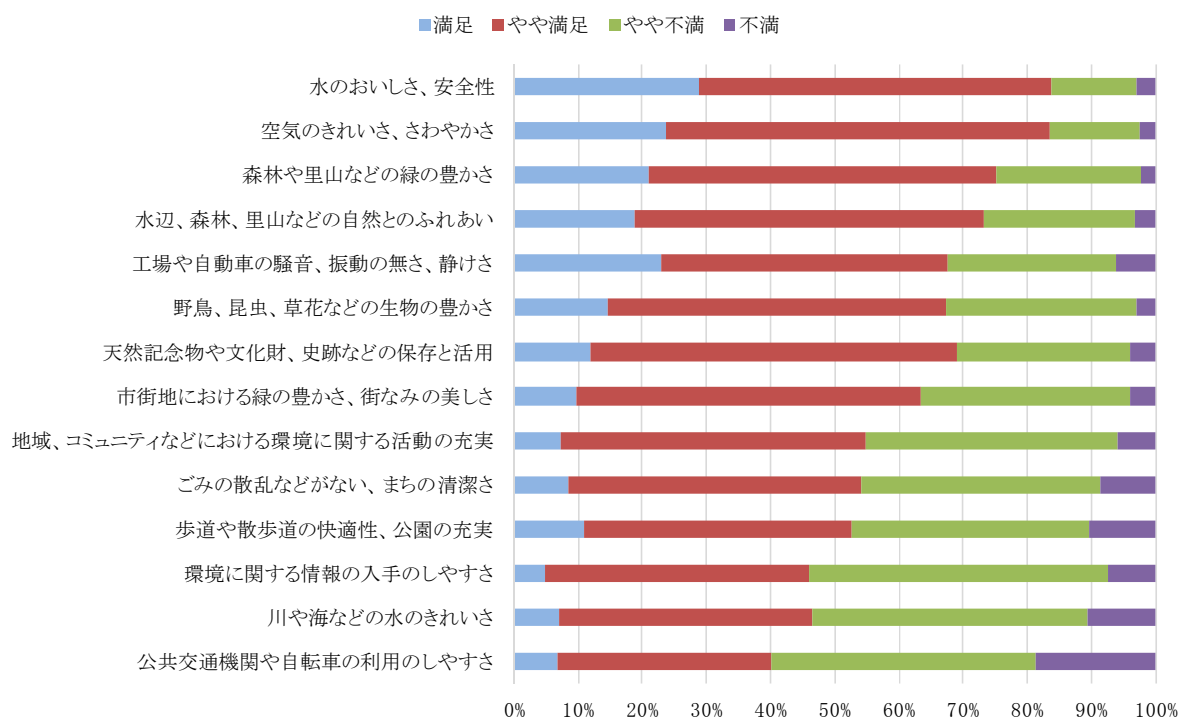


「ごみの散乱がない」「安全でおいしい水が飲める」「空気がきれい」「公共交通機関が利用しやすい」「歩道や公園の充実」と答えている人が多い。これらは前回調査と比較しても増加している。反対に「緑に恵まれ、自然に親しめる」は前回と比較して大幅（7.4ポイント）に減少した。

問3 あなたの身近な環境について、満足度をお聞きします。

選 択 肢	今回(H26)					前回(H21)
	満足	やや満足	やや不満	不満	平均値	平均値
水のおいしさ、安全性	347件	664件	158件	37件	1.90	2.07
空気のきれいさ、さわやかさ	286件	719件	169件	30件	1.95	2.09
森林や里山などの緑の豊かさ	249件	645件	270件	26件	2.06	2.17
水辺、森林、里山などの自然とのふれあい	224件	646件	277件	40件	2.11	2.25
工場や自動車の騒音、振動の無さ、静けさ	276件	536件	313件	75件	2.16	2.29
野鳥、昆虫、草花などの生物の豊かさ	175件	627件	354件	35件	2.21	2.29
天然記念物や文化財、史跡などの保存と活用	138件	662件	311件	46件	2.23	2.33
市街地における緑の豊かさ、街なみの美しさ	117件	640件	392件	47件	2.31	2.42
ごみの散乱などがない、まちの清潔さ	86件	560件	465件	69件	2.46	2.68
地域、コミュニティなどにおける環境に関する活動の充実	103件	548件	448件	105件	2.44	2.58
歩道や散歩道の快適性、公園の充実	130件	498件	443件	125件	2.47	2.58
川や海などの水のきれいさ	58件	483件	549件	88件	2.57	2.75
環境に関する情報の入手のしやすさ	84件	472件	511件	128件	2.57	2.64
公共交通機関や自転車の利用のしやすさ	82件	402件	495件	225件	2.72	2.80
計	2,355件	8,102件	5,155件	1,076件	2.30	2.42

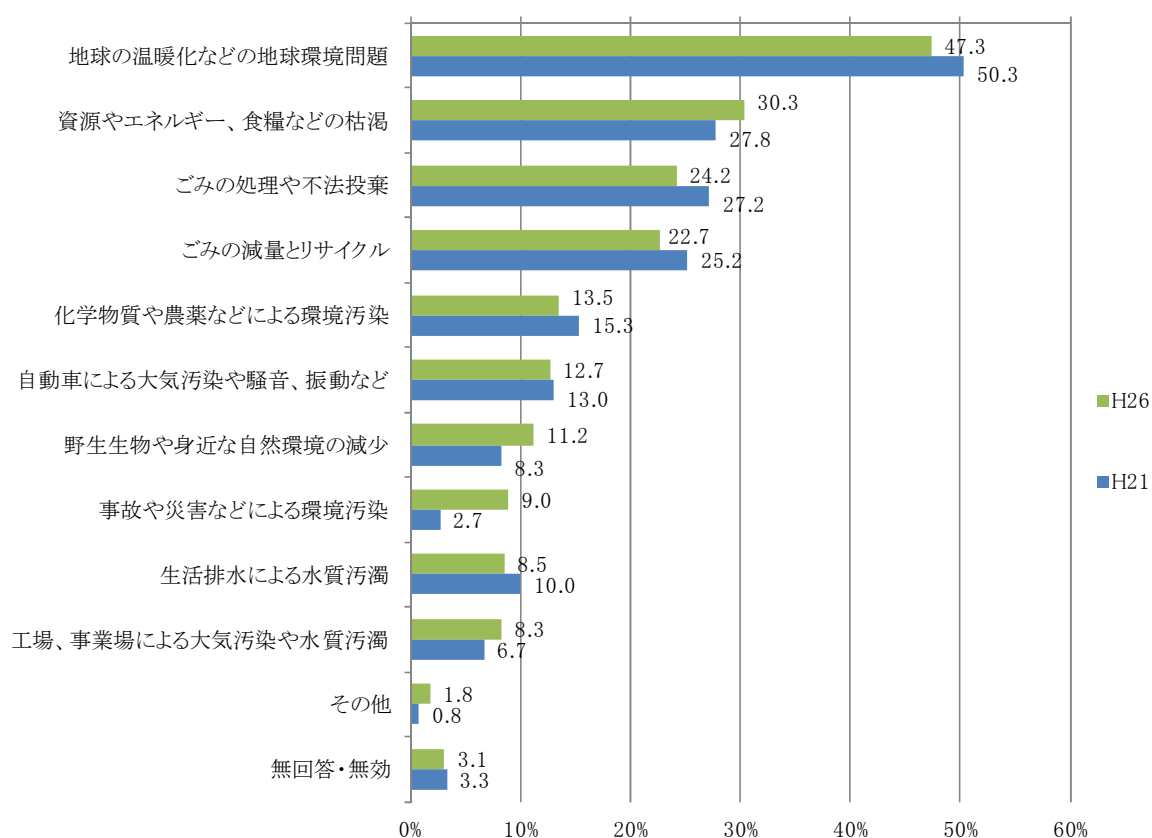
※ 平均値は 満足…1、やや満足…2、やや不満…3、不満…4 として集計、無回答は除く



「水のおいしさ」や「空気のきれいさ」など、生活環境に関する項目の満足度が高い。一方、「公共交通機関や自転車の利用のしやすさ」の満足度が最も低いことから、バスや電車などの公共交通機関に不満を感じている人が多いといえる。また、前回と比べると全ての項目で満足度（平均値）は向上している。

問4 最近の環境問題のうち、あなたが最も関心のあるものは何ですか【2つまで】

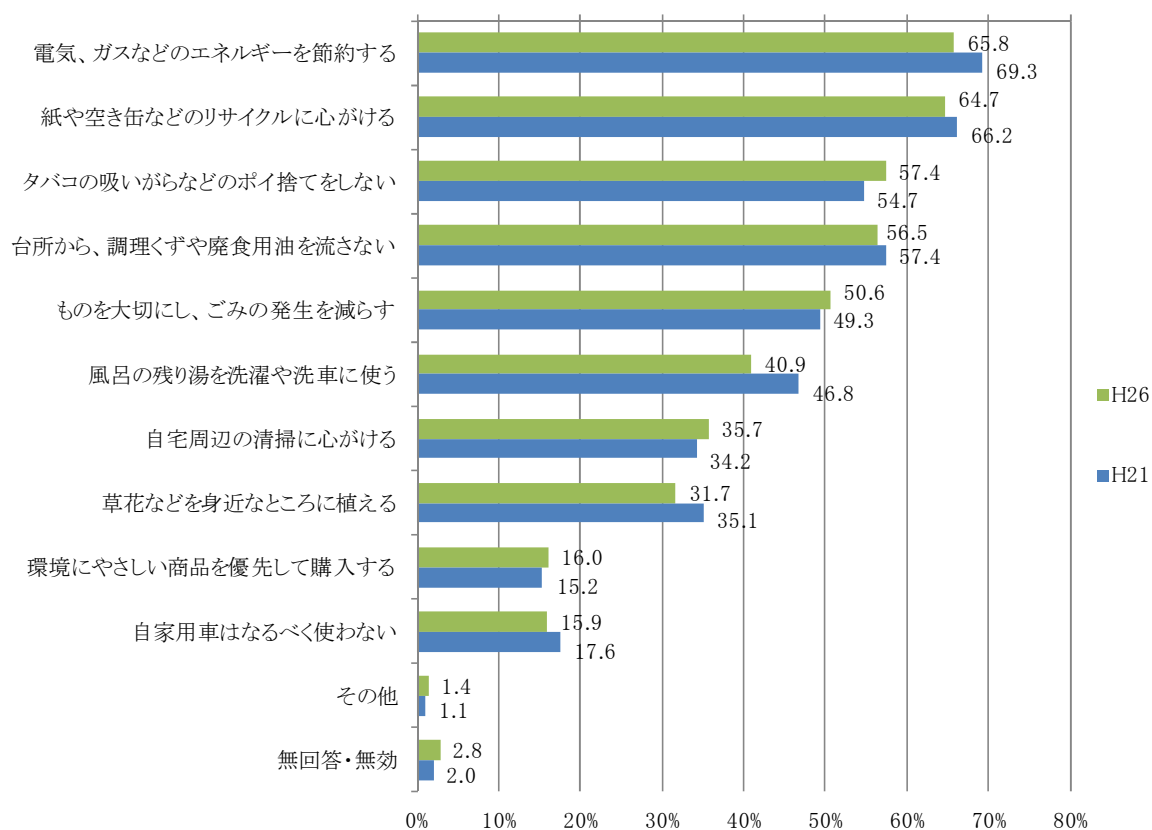
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
地球の温暖化やオゾン層の破壊などの地球環境問題	576 件	47.3%	50.3%
資源やエネルギー、食糧などの枯渇	369 件	30.3%	27.8%
ごみの処理や不法投棄	294 件	24.2%	27.2%
ごみの減量とリサイクル	276 件	22.7%	25.2%
化学物質や農薬などによる環境汚染	164 件	13.5%	15.3%
自動車による大気汚染や騒音、振動など	154 件	12.7%	13.0%
野生生物や身近な自然環境の減少	136 件	11.2%	8.3%
事故や災害などによる環境汚染	109 件	9.0%	2.7%
生活排水による水質汚濁	104 件	8.5%	10.0%
工場、事業場による大気汚染や水質汚濁	101 件	8.3%	6.7%
その他	22 件	1.8%	0.8%
無回答・無効	38 件	3.1%	3.3%
計	2,343 件	-	-



前回と同様、「温暖化やオゾン層の破壊などの地球環境問題」の関心が最も高かった。前回との比較では「事故、災害による環境汚染」が大幅（2.7%→9.0%）に高くなっているが、これは平成23年に発生した東日本大震災や原子力発電所の事故の影響により関心が高まったためだと考えられる。

問5 より良い環境をつくるために、あなたが日常生活の中で特に気をつけていることは何ですか【すべて】

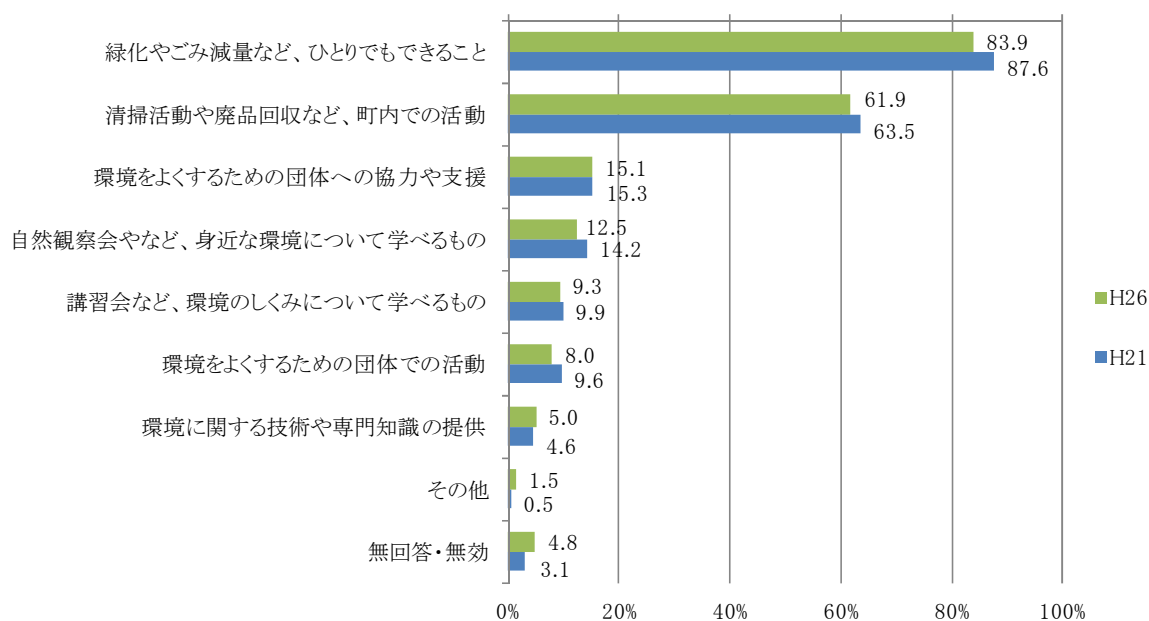
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
電気、ガスなどのエネルギーを節約する	801 件	65.8%	69.3%
紙や空き缶などのリサイクルに心がける	787 件	64.7%	66.2%
タバコの吸いながらやペットボトルなどのポイ捨てをしない	698 件	57.4%	54.7%
台所から、調理くずや廃食用油を流さない	687 件	56.5%	57.4%
ものを大切にし、ごみの発生を減らす	616 件	50.6%	49.3%
風呂の残り湯を洗濯や洗車に使う	498 件	40.9%	46.8%
自宅周辺の清掃に心がける	434 件	35.7%	34.2%
草花などを身近なところに植える	386 件	31.7%	35.1%
環境にやさしい商品（エコマーク商品など）を優先して購入する	195 件	16.0%	15.2%
公共交通機関などを利用し、自家用車はなるべく使わない	194 件	15.9%	17.6%
その他	17 件	1.4%	1.1%
無回答・無効	34 件	2.8%	2.0%
計	5,347 件	-	-



過半数の人が「エネルギーを節約する」「リサイクルを心掛ける」「ポイ捨てをしない」「台所から汚水を流さない」「ものを大切にし、ごみを減らす」と回答しており、多くの人が環境配慮行動をとっていることが分かる。一方で「自家用車をなるべく使わない」ことを意識している人は2割にも満たないことから、豊橋市民にとって自家用車は必要不可欠な移動手段となっていることがうかがえる。

問6 より良い環境をつくるために、あなたはどのような取り組みに参加または協力することができるとお考えですか【すべて】

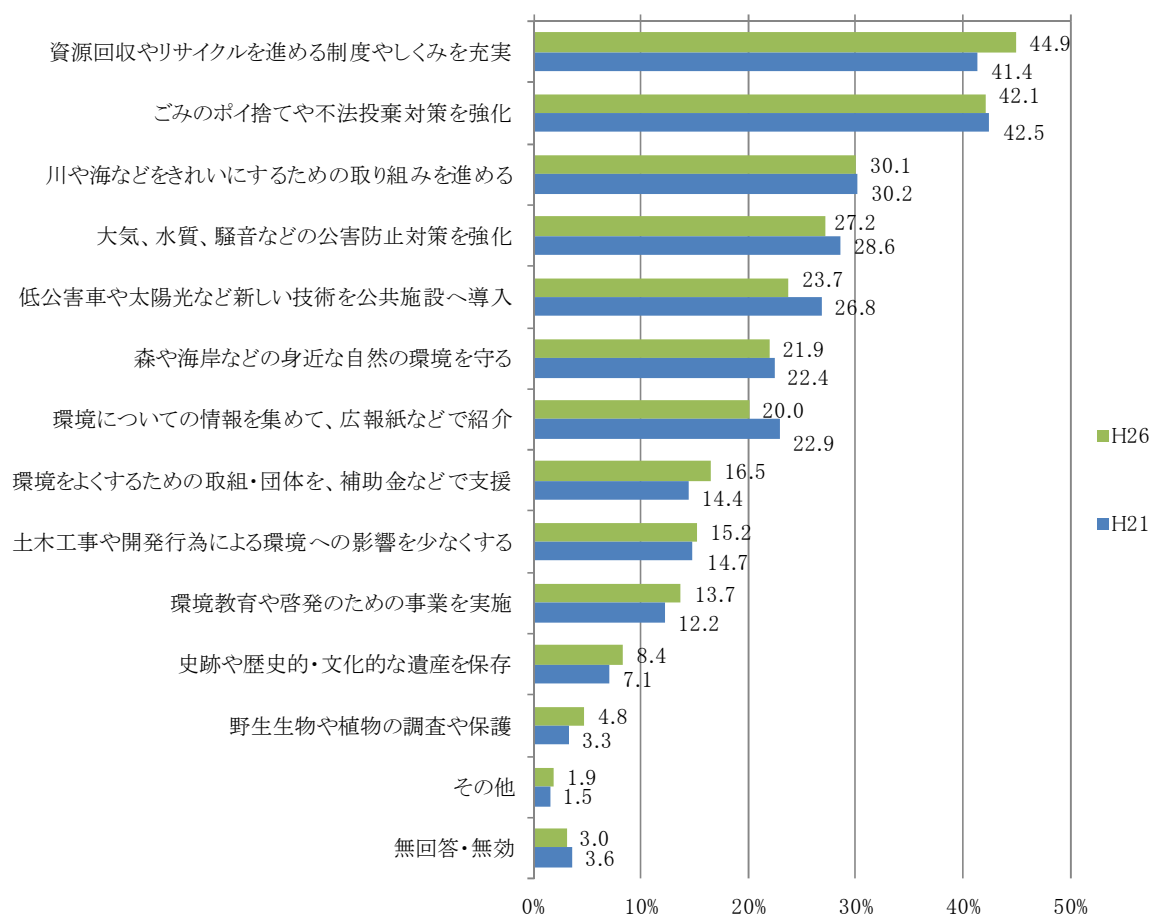
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
身の回りの緑化、ごみの減量や省エネルギーなど、ひとりでもできること	1,021 件	83.9%	87.6%
清掃活動や廃品回収など、町内での活動	753 件	61.9%	63.5%
環境をよくするための団体への協力や支援	184 件	15.1%	15.3%
自然観察会や環境教室など、身近な環境について学ぶことができるもの	152 件	12.5%	14.2%
講習会やシンポジウムなど、環境のしくみについて学ぶことができるもの	113 件	9.3%	9.9%
環境をよくするための団体での活動	97 件	8.0%	9.6%
環境に関する技術や専門知識の提供	61 件	5.0%	4.6%
その他	18 件	1.5%	0.5%
無回答・無効	59 件	4.8%	3.1%
計	2,458 件	-	-



「ひとりで出来る身近なこと」は8割以上の方が協力できると答え、「清掃活動などの町内活動」も6割以上の方が参加できると答えている。それ以外の選択肢は総じて低く、環境学習への参加意欲もかなり低い結果となった。

問7 より良い環境をつくるための市の取り組みとして、望ましいと思うことは何ですか【3つまで】

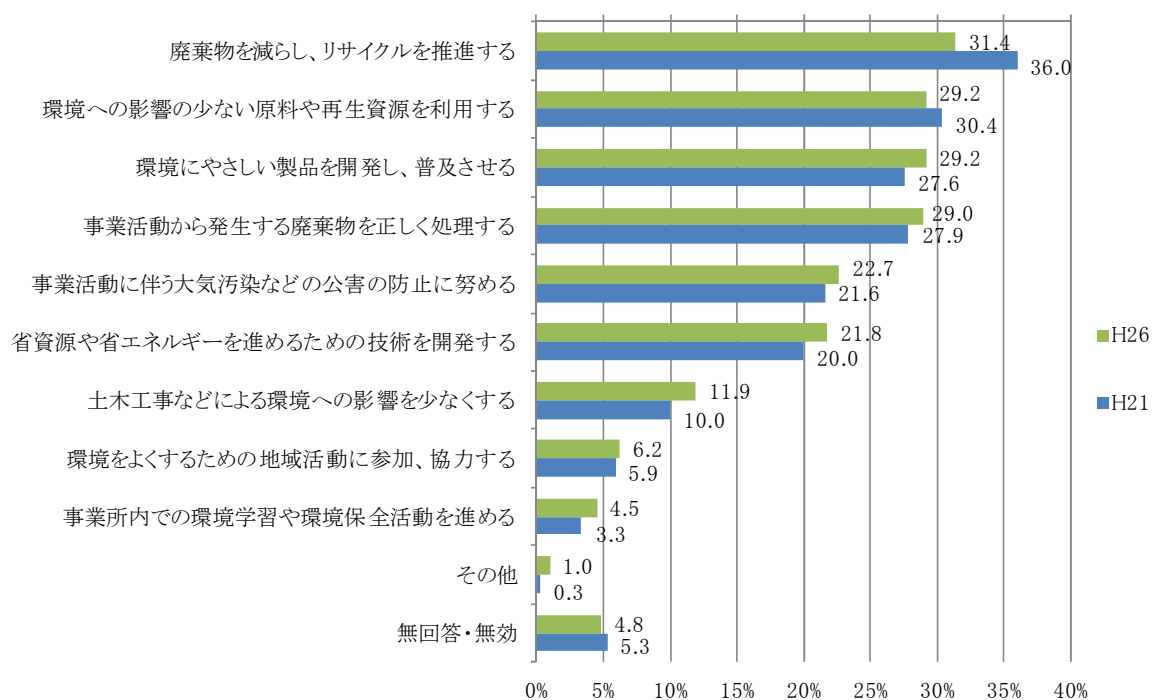
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
資源回収やリサイクルを進めるための制度やしくみを充実	547 件	44.9%	41.4%
ごみのポイ捨てや不法投棄対策を強化	512 件	42.1%	42.5%
川や海などをきれいにするための取り組みを進める	366 件	30.1%	30.2%
大気、水質、騒音などの公害防止対策を強化	331 件	27.2%	28.6%
低公害車や太陽光発電システムなどの新しい技術を公共施設へ導入	289 件	23.7%	26.8%
森や海岸などの身近な自然の環境を守る	267 件	21.9%	22.4%
環境についての情報を集めて、広報紙などで紹介	244 件	20.0%	22.9%
環境をよくするための取り組みや団体行動を、補助金などで支援	201 件	16.5%	14.4%
土木工事や開発行為などによる環境への影響を少なくする	185 件	15.2%	14.7%
環境教育や啓発のための事業を実施	167 件	13.7%	12.2%
史跡や歴史的・文化的な遺産を保存	102 件	8.4%	7.1%
野生生物や植物の調査や保護	58 件	4.8%	3.3%
その他	23 件	1.9%	1.5%
無回答・無効	37 件	3.0%	3.6%
計	3,329 件	-	-



「資源回収やリサイクル制度の充実」と答えた人が最も多く、割合も前回より 3.5 ポイント増加している。「リサイクル率」の進捗状況が 18.3% (平成 26 年度速報値) と他都市と比べて低いことから、今後さらに資源回収やリサイクル施策を充実させる必要がある。

問8 より良い環境をつくるための事業者の取り組みとして、望ましいと思うことは何ですか
【3つまで】

選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
事業活動から発生する廃棄物を減らし、リサイクルを推進する	382 件	31.4%	36.0%
環境への影響の少ない原料や再生資源を利用する	355 件	29.2%	30.4%
環境にやさしい製品を開発し、普及させる	355 件	29.2%	27.6%
事業活動から発生する廃棄物を正しく処理する	353 件	29.0%	27.9%
事業活動に伴う大気汚染や水質汚濁などの公害の防止に努める	276 件	22.7%	21.6%
省資源や省エネルギーを進めるための技術を開発する	265 件	21.8%	20.0%
土木工事や開発行為などによる環境への影響を少なくする	145 件	11.9%	10.0%
環境をよくするための地域活動に参加、協力する	76 件	6.2%	5.9%
事業所内での環境学習や環境保全活動を進める	55 件	4.5%	3.3%
その他	12 件	1.0%	0.3%
無回答・無効	59 件	4.8%	5.3%
計	2,333 件	-	-

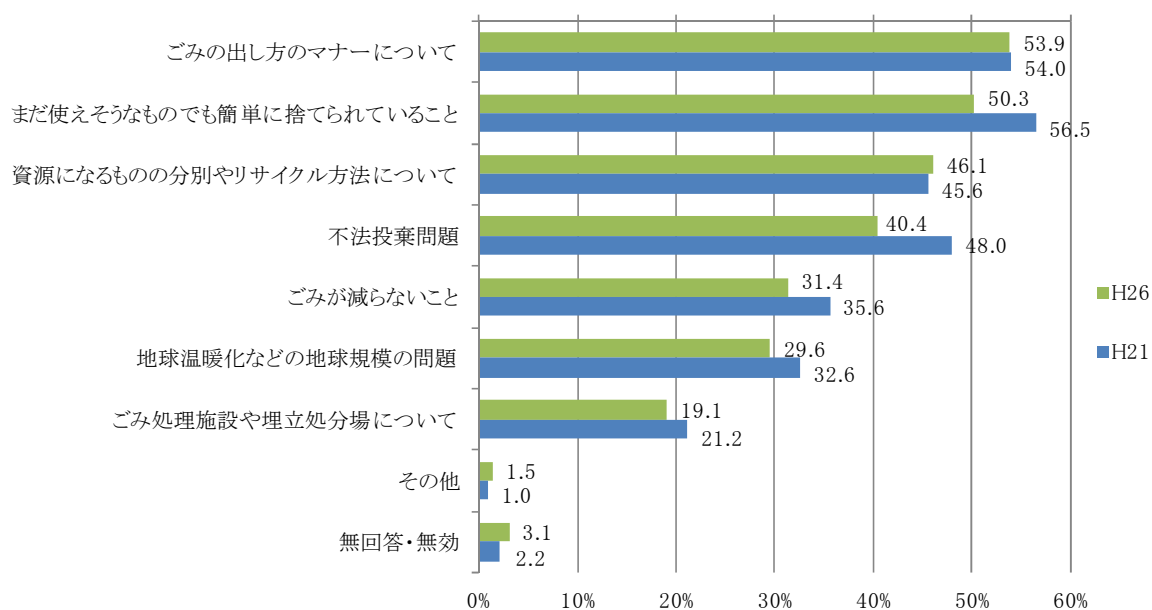


「リサイクルを推進する」「環境影響の少ない原料や再生資源を利用する」「環境にやさしい製品を開発・普及させる」「廃棄物を正しく処理する」と答えた人が多く、「環境を良くするための地域活動に参加する」「環境学習や保全活動を進める」と答えた人が少ないことから、事業活動の中で直接的に環境負荷を軽減する取り組みを望んでいることがうかがえる。

■ ごみ処理のことについておたずねします

問9 あなたは、ごみの減量やリサイクルなどのごみ問題について、どのような内容に関心がありますか【すべて】

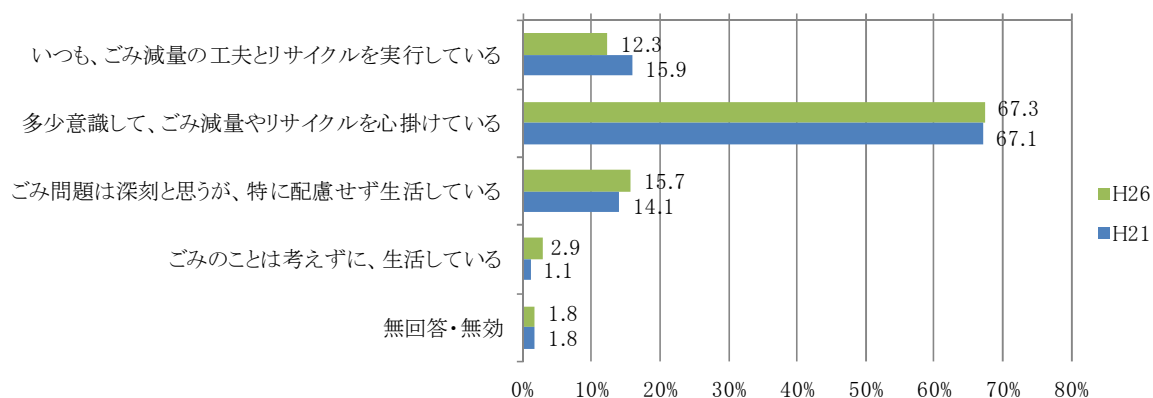
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
ごみの出し方のマナーについて	656 件	53.9%	54.0%
まだ使えそうなものでも簡単に捨てられていること	612 件	50.3%	56.5%
資源になるものの分別やリサイクル方法について	561 件	46.1%	45.6%
不法投棄問題	492 件	40.4%	48.0%
ごみが減らないこと	382 件	31.4%	35.6%
地球温暖化などの地球規模の問題	360 件	29.6%	32.6%
ごみ処理施設や埋立処分場について	233 件	19.1%	21.2%
その他	18 件	1.5%	1.0%
無回答・無効	38 件	3.1%	2.2%
計	3,352 件	-	-



「ごみ出しのマナーについて」「まだ使えそうなものでも簡単に捨てられていること」と答えた人が5割以上と多く、ごみステーション等の身近な問題に関心を持つ人が多い。また、前回と比較すると「不法投棄問題」が7.6ポイントと、最も減少している。

問 10 あなたは、日頃の暮らしの中で、ごみとどのように関わっていますか

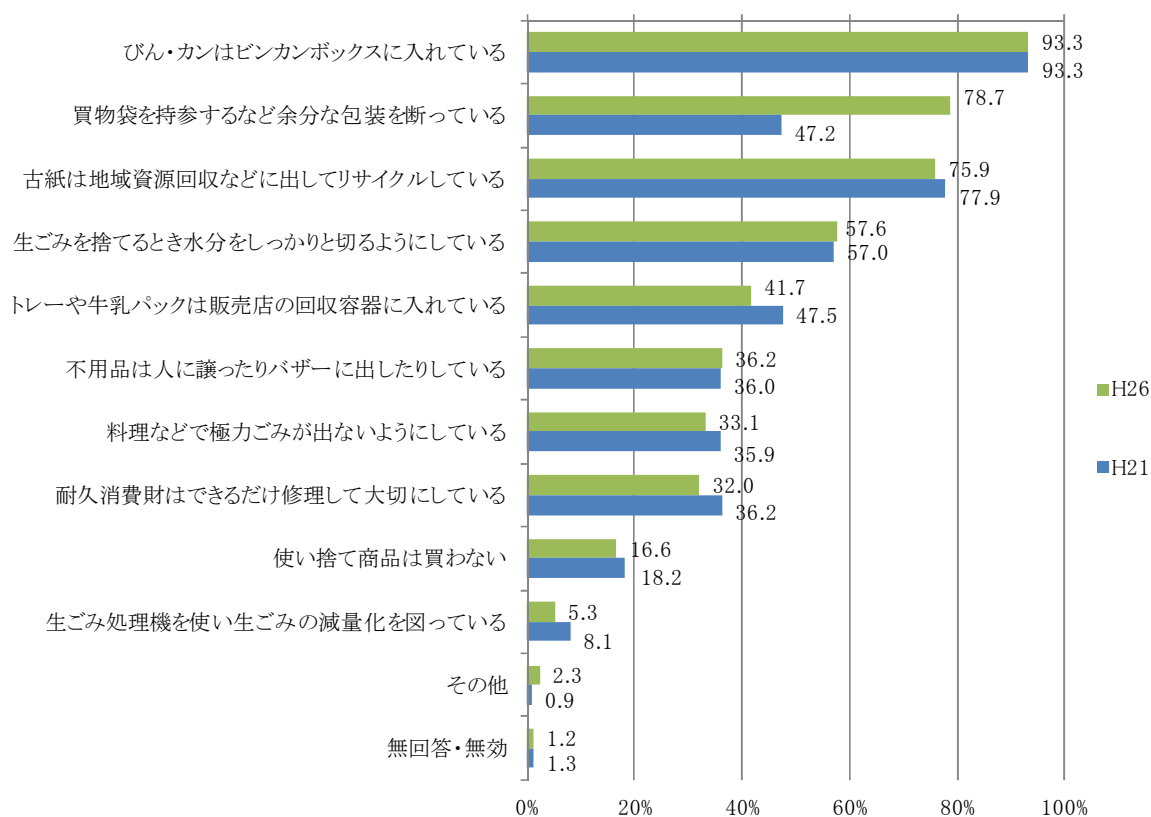
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
いつも、ごみを少なくする工夫とリサイクルを実行している	150 件	12.3%	15.9%
多少意識して、ごみを少なくする配慮やリサイクルを心掛けている	819 件	67.3%	67.1%
ごみの問題は深刻だと思いながらも、特に配慮はせずに生活している	191 件	15.7%	14.1%
ごみのことは考えずに、生活している	35 件	2.9%	1.1%
無回答・無効	22 件	1.8%	1.8%
計	1,217 件	100.0%	100.0%



「いつもごみ減量等を実行している」「多少意識している」との回答が約 8 割で、多くの方がごみ減量やリサイクルに関し前向きであるといえる。しかし、前回と比較すると「特に配慮していない」「考えていない」と回答した人がやや増加しており、若干意識が低下していると考えられることから、市民にごみ問題について考えてもらう取り組みを行っていく必要がある。

問 11 あなたは、ごみの減量とリサイクルについてどのような取り組みを行っていますか【すべて】

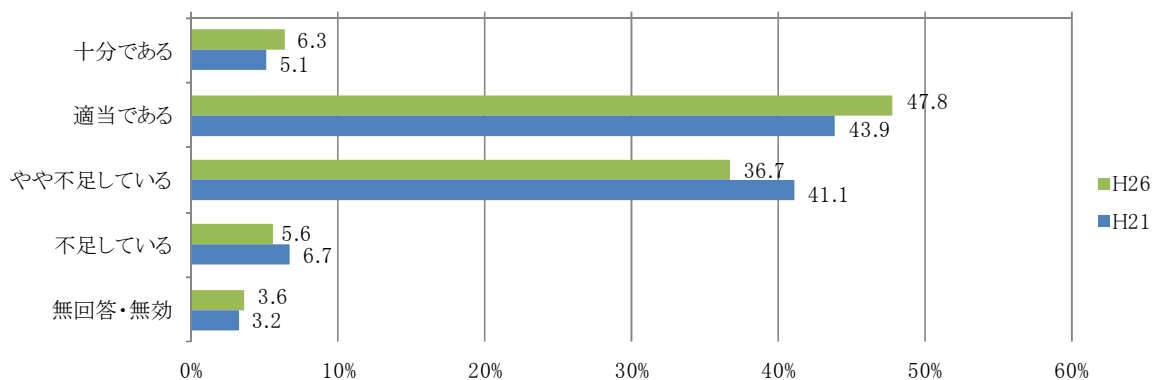
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
びん・カンはビンカンボックスに入れている	1,135 件	93.3%	93.3%
買物袋を持参するなど余分な包装を断っている	958 件	78.7%	47.2%
古紙は地域資源回収などに出してリサイクルしている	924 件	75.9%	77.9%
生ごみを捨てる時は、水分をしっかりと切るようにしている	701 件	57.6%	57.0%
トレーや牛乳パックなどは販売店の回収容器に入れている	507 件	41.7%	47.5%
不用品は人に譲ったりバザーに出したりしている	441 件	36.2%	36.0%
料理などで極力ごみが出ないようにしている	403 件	33.1%	35.9%
修理可能な耐久消費財はできるだけ修理してものを大切にしている	389 件	32.0%	36.2%
使い捨て商品は買わない	202 件	16.6%	18.2%
生ごみ減量容器や電動式生ごみ処理機を活用して生ごみの減量化を図っている	64 件	5.3%	8.1%
その他	28 件	2.3%	0.9%
無回答・無効	15 件	1.2%	1.3%
計	5,767 件	-	-



「ビンカンボックス」と答えた人が 93.3%と最も多く、多くの方に活用されていることが分かる。前回調査との比較では「買物袋の持参」と答えた人が 31.5ポイント多くなっているが、これはレジ袋の有料化を実施する店が増えたことに伴い、マイバックの利用者が増加したためだと考えられる。

問 12 あなたは、本市のごみの減量策やリサイクル策は十分だと思いますか

選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
十分である	77 件	6.3%	5.1%
適当である	581 件	47.8%	43.9%
やや不足している	447 件	36.7%	41.1%
不足している	68 件	5.6%	6.7%
無回答・無効	44 件	3.6%	3.2%
計	1,217 件	100.0%	100.0%

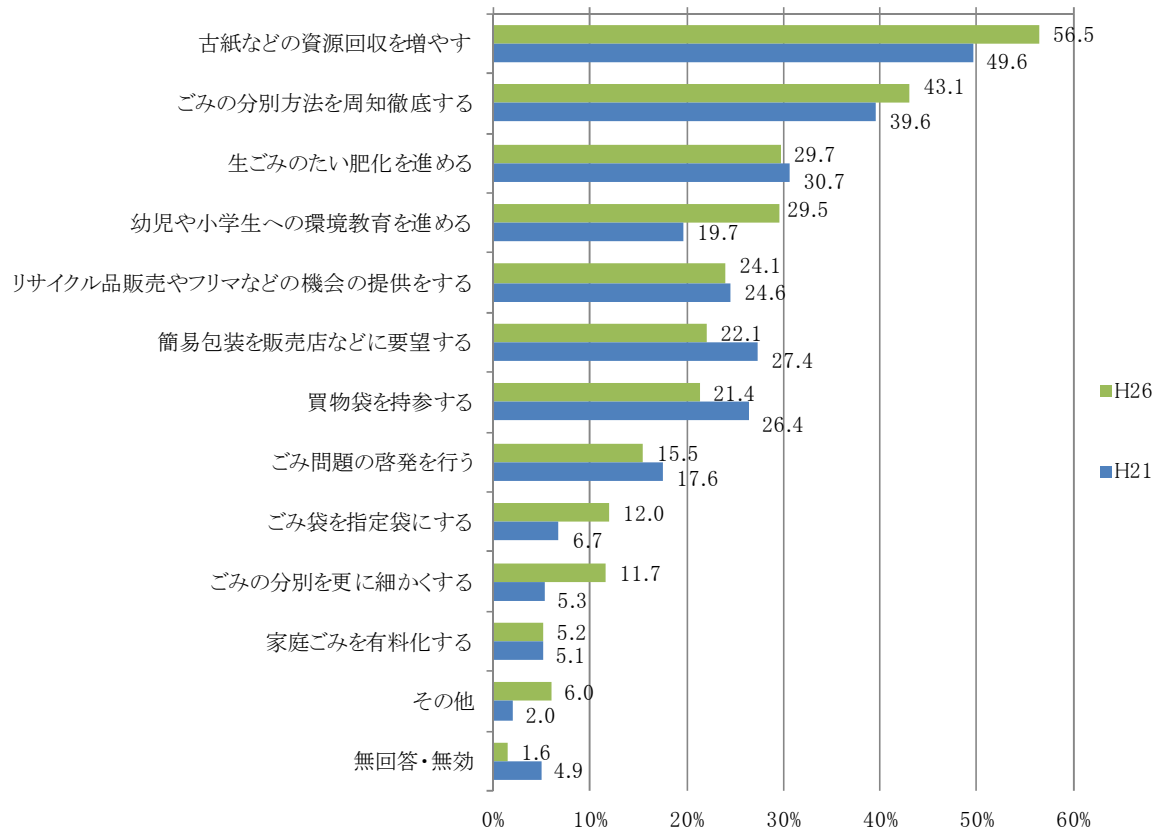


「十分である」「適当である」と答えた人は 54.1%で過半数が本市の取り組みを十分だと感じている。しかしながら「不足している」「やや不足している」と答えた人も 42.3%と多い。また、前回との比較では、「十分である」「適当である」との回答が増加し、「不足している」「やや不足している」との回答が減少したことから、本市のごみ減量策やリサイクル策に満足している人が増えていることがうかがえる。

問 12 で「不足している」「やや不足している」を選んだ人

あなたは、どのような施策の充実が必要だと思いますか【3つまで】

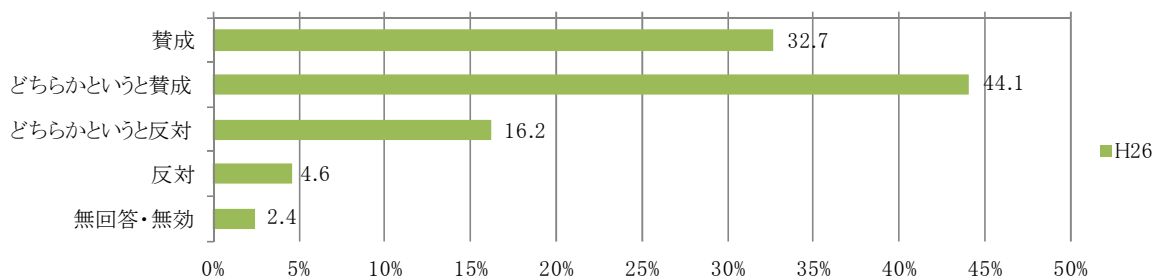
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
古紙などの資源回収（集団回収、リサイクルステーションなど）を増やす	291 件	56.5%	49.6%
ごみの分別方法を周知徹底する	222 件	43.1%	39.6%
生ごみのたい肥化を進める	153 件	29.7%	30.7%
幼児や小学生への環境教育を進める	152 件	29.5%	19.7%
家具などのリサイクル品としての販売やフリーマーケットなどの機会の提供をする	124 件	24.1%	24.6%
簡易包装を販売店などに要望する	114 件	22.1%	27.4%
買物袋を持参する	110 件	21.4%	26.4%
ごみ問題の啓発を行う	80 件	15.5%	17.6%
ごみ袋を指定袋にする（レジ袋でのごみの持ち出しを禁止する）	62 件	12.0%	6.7%
ごみの分別を更に細かくする	60 件	11.7%	5.3%
家庭ごみを有料化する	27 件	5.2%	5.1%
その他	31 件	6.0%	2.0%
無回答・無効	8 件	1.6%	4.9%
計	1,434 件	-	-



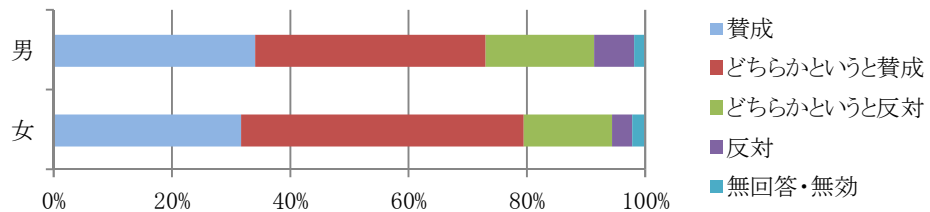
「古紙などの資源回収を増やす」「ごみの分別方法を周知徹底する」との回答が多く、また、前回よりも増加しているため、取り組みをさらに充実させる必要がある。また、「環境教育を進める」との回答が前回と比べて 9.8ポイント増加しているが、H26 年度に ESD 世界会議が開催されたことにより、環境教育の必要性が高まっていることがうかがえる。

問 13 現在、“生ごみ”は“もやすごみ”として出してもらっていますが、生ごみを資源として有効活用するため、“もやすごみ”から“生ごみ”を分けて出すことについて、どのように思いますか <H26 新設>

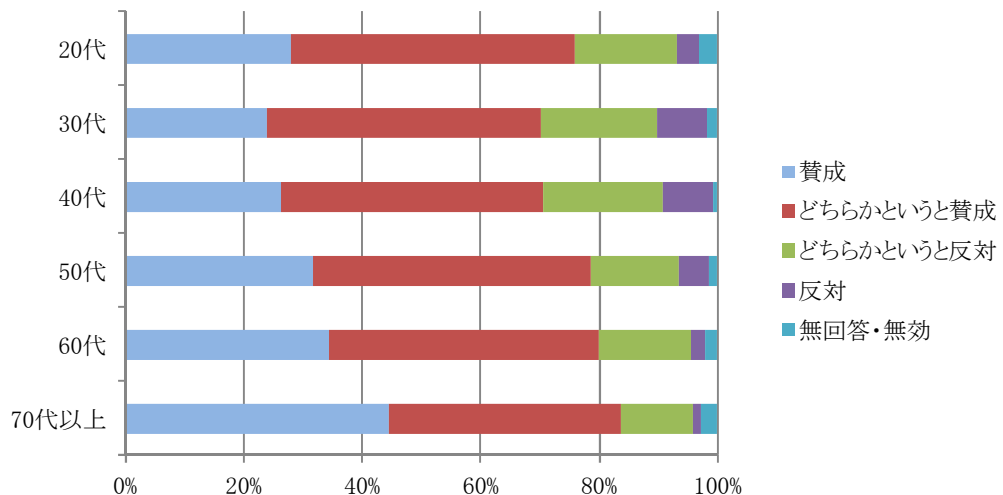
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
賛成	398 件	32.7%	-
どちらかという賛成	537 件	44.1%	-
どちらかという反対	197 件	16.2%	-
反対	56 件	4.6%	-
無回答・無効	29 件	2.4%	-
計	1,217 件	100.0%	-



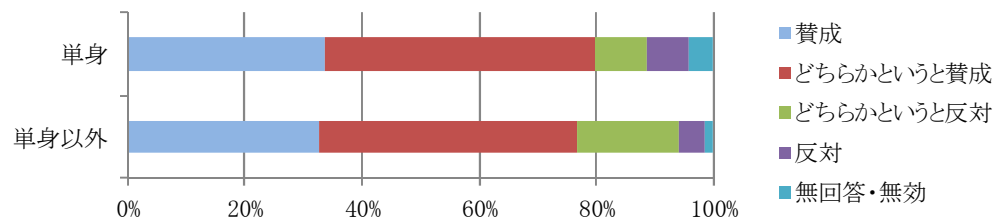
【男女別】



【年代別】



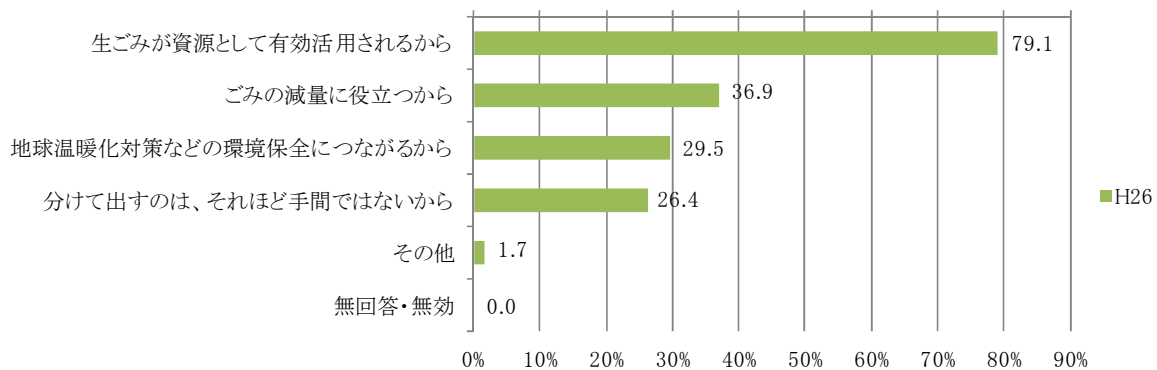
【世帯別】



問13で「賛成」「どちらかという賛成」を選んだ人

あなたが、そのように思うのはどうしてですか【2つまで】

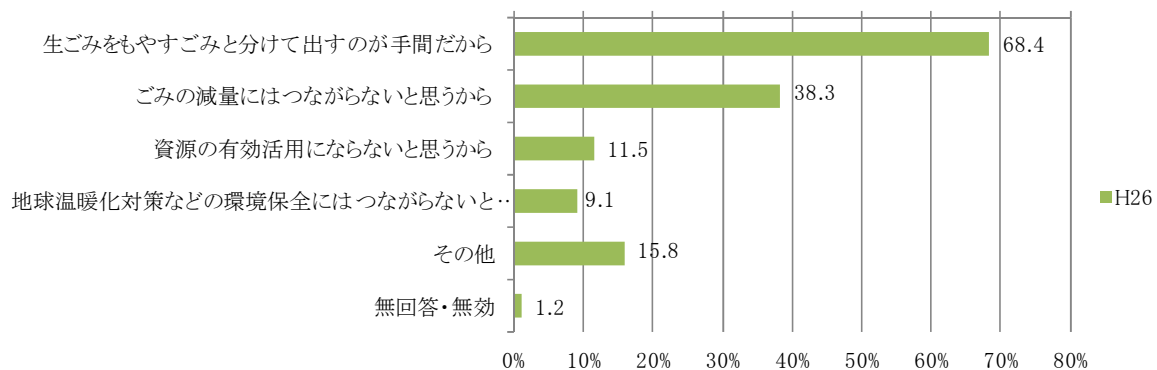
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
生ごみが資源として有効活用されるから	740 件	79.1%	-
ごみの減量に役立つから	345 件	36.9%	-
地球温暖化対策などの環境保全につながるから	276 件	29.5%	-
生ごみをもやすごみと分けて出すのは、それほど手間ではないから	247 件	26.4%	-
その他	16 件	1.7%	-
無回答・無効	0 件	0.0%	-
計	1,624 件	-	-



問13で「反対」「どちらかという反対」を選んだ人

あなたが、そのように思うのはどうしてですか【2つまで】

選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
生ごみをもやすごみと分けて出すのが手間だから	173 件	68.4%	-
ごみの減量にはつながらないと思うから	97 件	38.3%	-
資源の有効活用にならないと思うから	29 件	11.5%	-
地球温暖化対策などの環境保全にはつながらないと思うから	23 件	9.1%	-
その他	40 件	15.8%	-
無回答・無効	3 件	1.2%	-
計	365 件	-	-

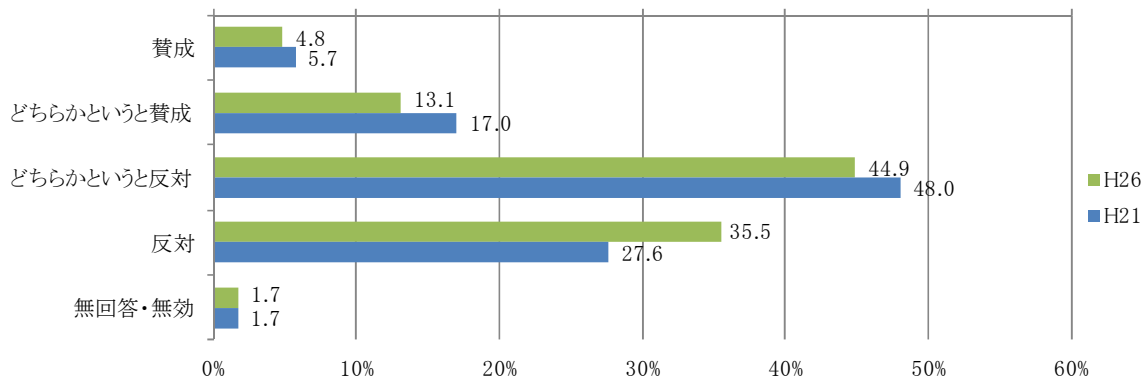


約 8 割の人が「賛成」「どちらかという賛成」と答えていることから、多くの市民は「もやすごみ」から「生ごみ」を分けて出すことに協力的であるといえる。また、理由として「生ごみが資源として有効活用されるから」を挙げている人が最も多いことから、このような環境に配慮した施策に協力的な人が多いことがうかがえる。

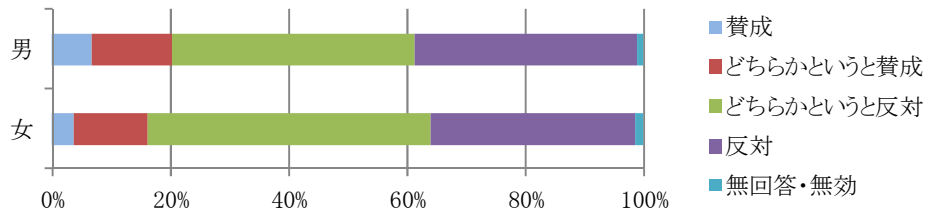
生ごみをわけて出すことに反対と回答した人は、その理由として「分けて出すのが手間」と回答した人が 68.4%と最も多かった。また、次いで「ごみの減量にはつながらないと思う」と回答した人が 38.3%と多かったことから、生ごみを分別することでどれほどのごみ減量効果があるのかという情報を発信し、市民に認識してもらう必要があるといえる。

問 14 あなたは、ごみの排出量に応じて手数料を徴収する「家庭ごみの有料化」について、どのように思いますか

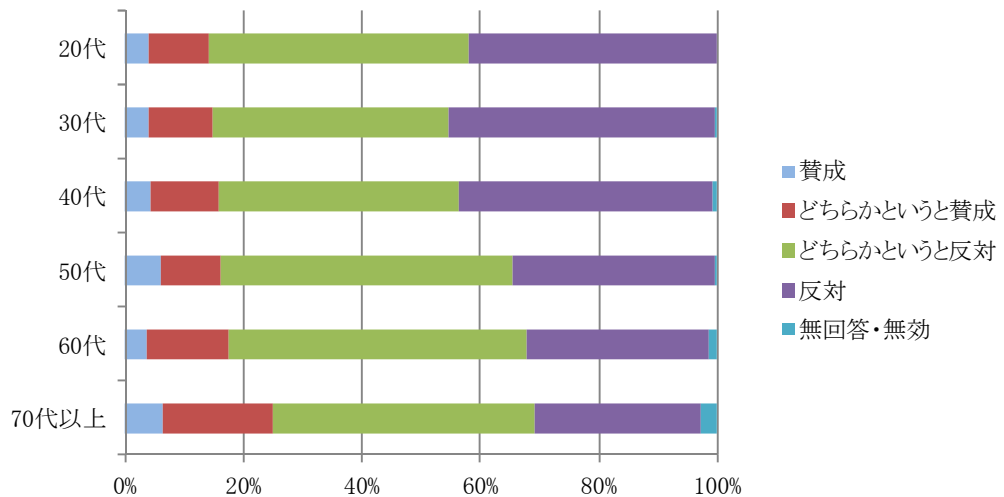
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
賛成	59	4.8%	5.7%
どちらかという賛成	159	13.1%	17.0%
どちらかという反対	546	44.9%	48.0%
反対	432	35.5%	27.6%
無回答・無効	21	1.7%	1.7%
計	1,217	100.0%	100.0%



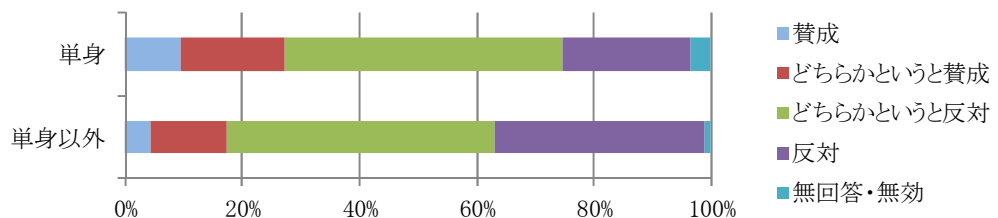
【男女別】



【年代別】



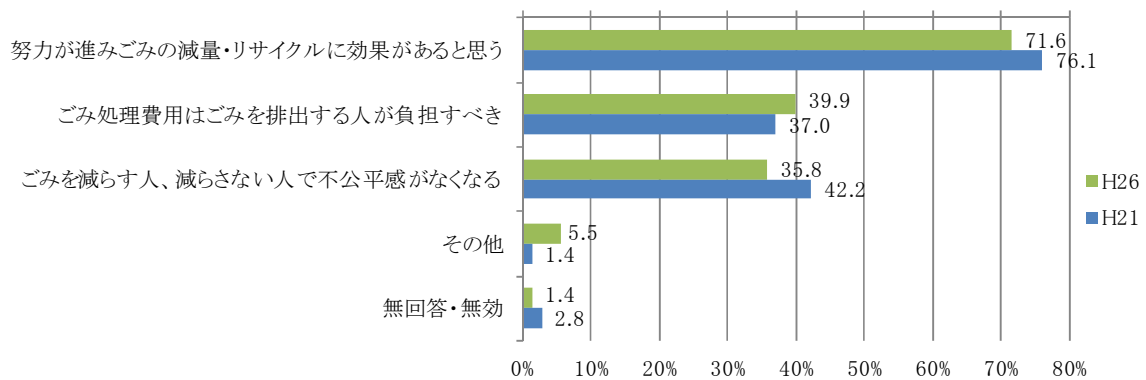
【世帯別】



問 14 で「賛成」「どちらかという賛成」を選んだ人

あなたが、そのように思うのはどうですか【2つまで】

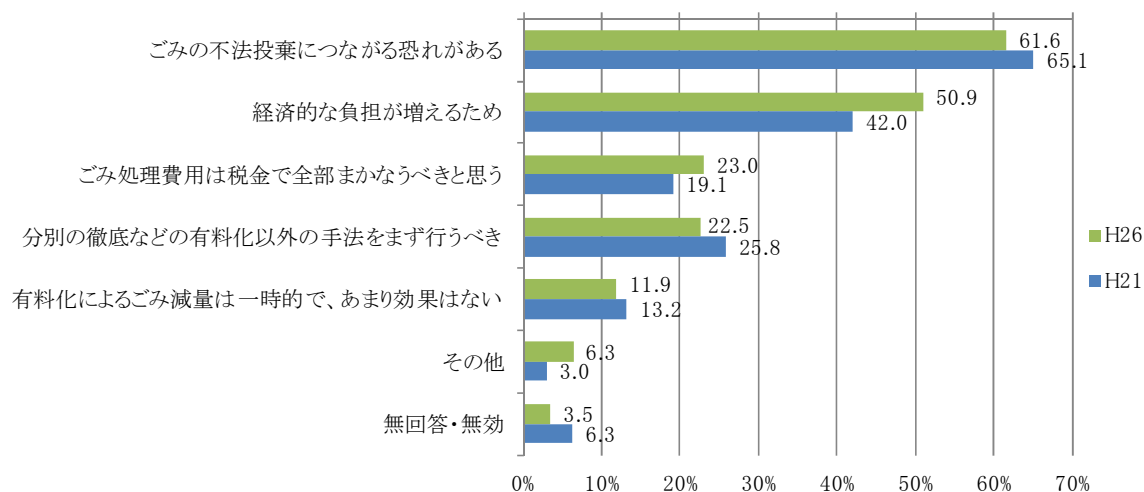
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
ごみの減量や分別・リサイクルを進めるための努力が進み、ごみの減量・リサイクルに効果があると思う	156 件	71.6%	76.1%
ごみ処理費用はごみを排出する人が負担すべき	87 件	39.9%	37.0%
ごみを減らす努力をしている人と、していない人との不公平感がなくなる	78 件	35.8%	42.2%
その他	12 件	5.5%	1.4%
無回答・無効	3 件	1.4%	2.8%
計	336 件	-	-



問 14 で「反対」「どちらかという反対」を選んだ人

あなたが、そのように思うのはどうですか【2つまで】

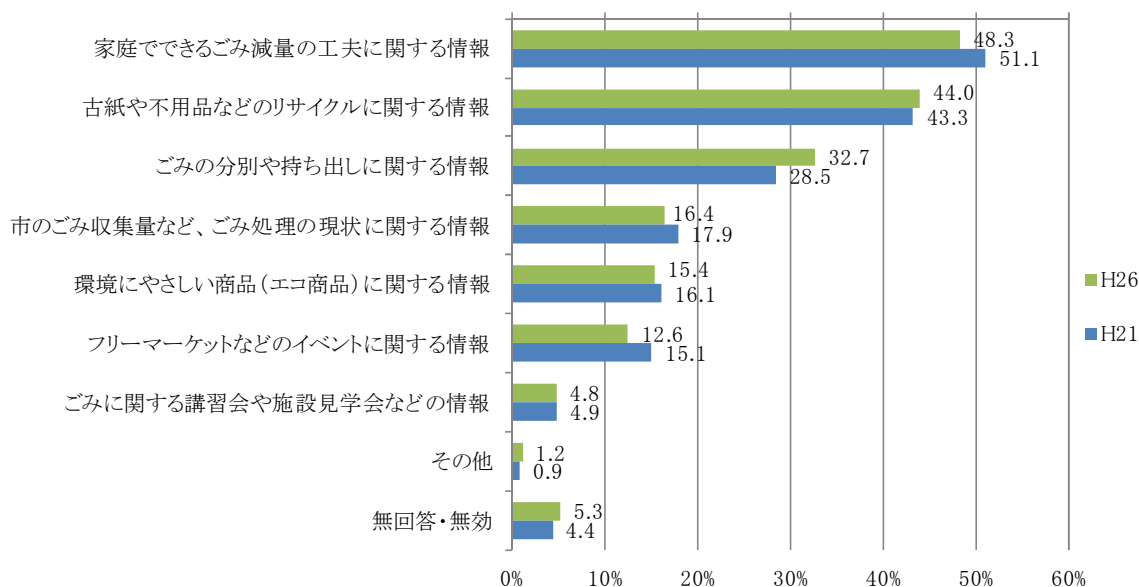
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
ごみの不法投棄につながる恐れがある	602 件	61.6%	65.1%
経済的な負担が増えるため	498 件	50.9%	42.0%
ごみ処理費用は税金で全部まかなうべきと思う	225 件	23.0%	19.1%
ごみの減量には分別の徹底や普及啓発などの有料化以外の手法をまず行うべき	220 件	22.5%	25.8%
有料化によるごみの減量は一時的で、あまり効果はないと思う	116 件	11.9%	13.2%
その他	62 件	6.3%	3.0%
無回答・無効	34 件	3.5%	6.3%
計	1,757 件	-	-



「賛成」「どちらかというとな賛成」と答えた人が 17.9%で、「反対」「どちらかというとな反対」と答えた人が 80.4%であることから、多くの市民が家庭ごみの有料化に反対していることが分かる。また、前回と比較して「反対」「どちらかというとな反対」と答えた人が 4.8ポイント増加している。家庭ごみの有料化に賛成と回答した人は、「ごみ減量の努力が進み、ごみの減量・リサイクルに効果がある」を理由にした人が 71.6%で最も多い。家庭ごみの有料化に反対と回答した人は、前回と同じく「ごみの不法投棄につながる」という意見が最も多かった。また、前回と比較して「税金でまかなうべき」「経済的な負担が増えるため」といった金銭に関連する意見が増加した。

問 15 あなたは、ごみ減量・リサイクルに関して、今後どのような情報が最も必要だと思いますか【2つまで】

選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
家庭でできるごみ減量の工夫に関する情報	588 件	48.3%	51.1%
古紙などの資源や家庭での不用品などのリサイクルに関する情報	535 件	44.0%	43.3%
ごみの分別や持ち出しに関する情報	398 件	32.7%	28.5%
市のごみ収集量の移り変わりなど、ごみ処理の現状に関する情報	200 件	16.4%	17.9%
環境にやさしい商品（エコ商品）に関する情報	187 件	15.4%	16.1%
フリーマーケットなどのイベントに関する情報	153 件	12.6%	15.1%
ごみに関する講習会や施設見学会などの情報	59 件	4.8%	4.9%
その他	14 件	1.2%	0.9%
無回答・無効	64 件	5.3%	4.4%
計	2,198 件	-	-



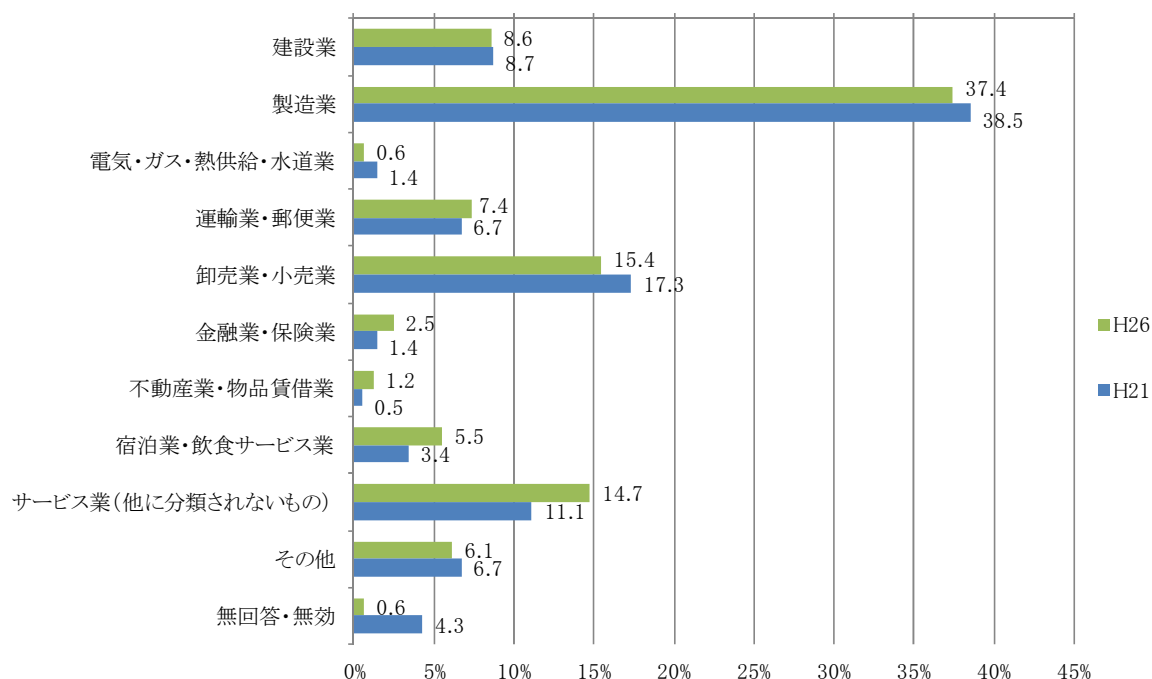
「ごみ減量の工夫に関する情報」と答えた人が約 5 割と最も多く、次いで「リサイクルに関する情報」が 4 割強、「ごみの分別に関する情報」が約 3 割と続いている。中でも「ごみの分別に関する情報」と回答した人が前回より 4.2 ポイント増加しており、ごみ分別に対する関心が高まっていることがうかがえる。

(2) 事業者アンケート

■ 貴事業所の概要についておたずねします

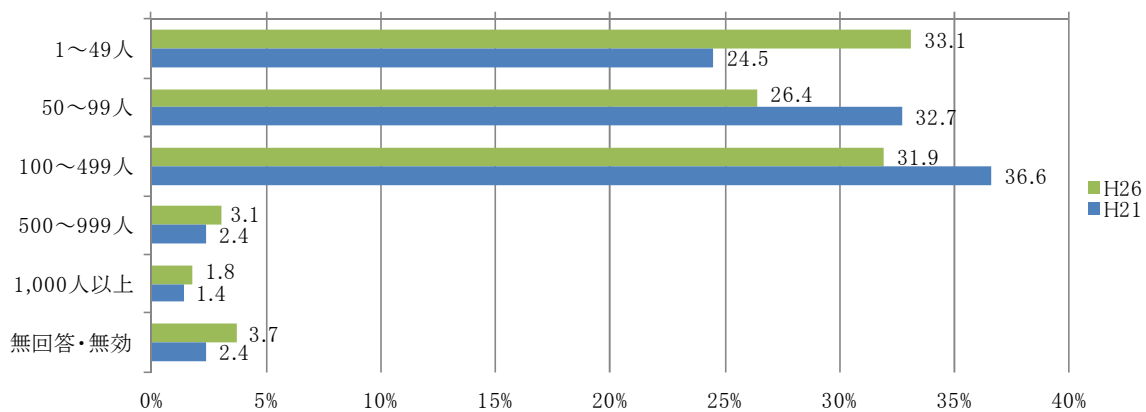
1) 貴事業所の業種は

選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
建設業	14 件	8.6%	8.7%
製造業	61 件	37.4%	38.5%
電気・ガス・熱供給・水道業	1 件	0.6%	1.4%
運輸業・郵便業	12 件	7.4%	6.7%
卸売業・小売業	25 件	15.4%	17.3%
金融業・保険業	4 件	2.5%	1.4%
不動産業・物品賃借業	2 件	1.2%	0.5%
宿泊業・飲食サービス業	9 件	5.5%	3.4%
サービス業 (他に分類されないもの)	24 件	14.7%	11.1%
その他	10 件	6.1%	6.7%
無回答・無効	1 件	0.6%	4.3%
計	163 件	100.0%	100.0%



2) 貴事業所の従業員数は

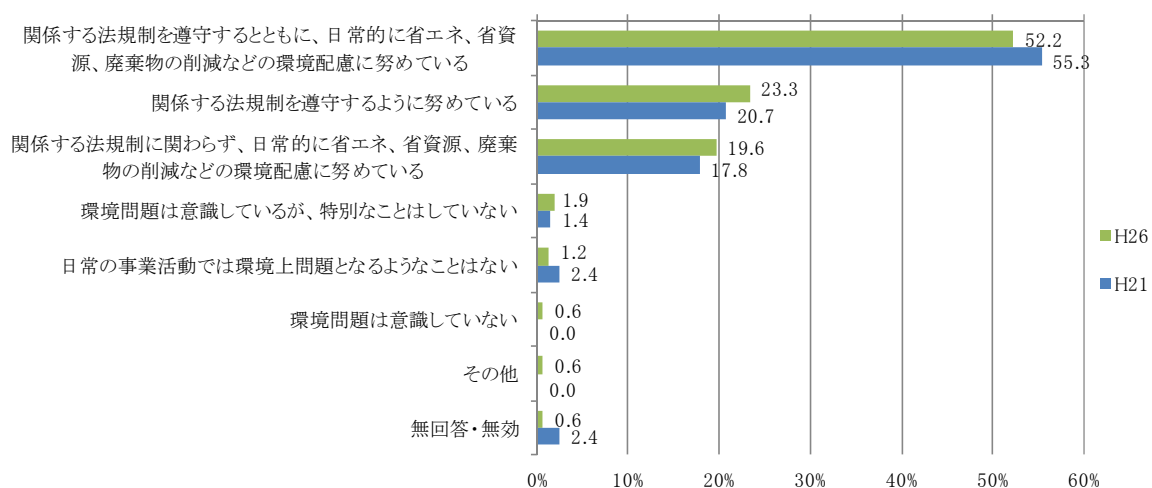
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
1～49人	54件	33.1%	24.5%
50～99人	43件	26.4%	32.7%
100～499人	52件	31.9%	36.6%
500～999人	5件	3.1%	2.4%
1,000人以上	3件	1.8%	1.4%
無回答・無効	6件	3.7%	2.4%
計	163件	100.0%	100.0%



■ 環境全般のことについておたずねします

問1 貴事業所では、事業活動を行う上で、環境についてどのように意識されていますか

選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
関係する法規制を遵守するとともに、日常的に省エネ、省資源、廃棄物の削減などの環境配慮に努めている	85 件	52.2%	55.3%
関係する法規制を遵守するように努めている	38 件	23.3%	20.7%
関係する法規制に関わらず、日常的に省エネ、省資源、廃棄物の削減などの環境配慮に努めている	32 件	19.6%	17.8%
環境問題は意識しているが、特別なことはしていない	3 件	1.9%	1.4%
日常の事業活動では、環境上問題となるようなことはない	2 件	1.2%	2.4%
環境問題は意識していない	1 件	0.6%	0.0%
その他	1 件	0.6%	0.0%
無回答・無効	1 件	0.6%	2.4%
計	163 件	100.0%	100.0%

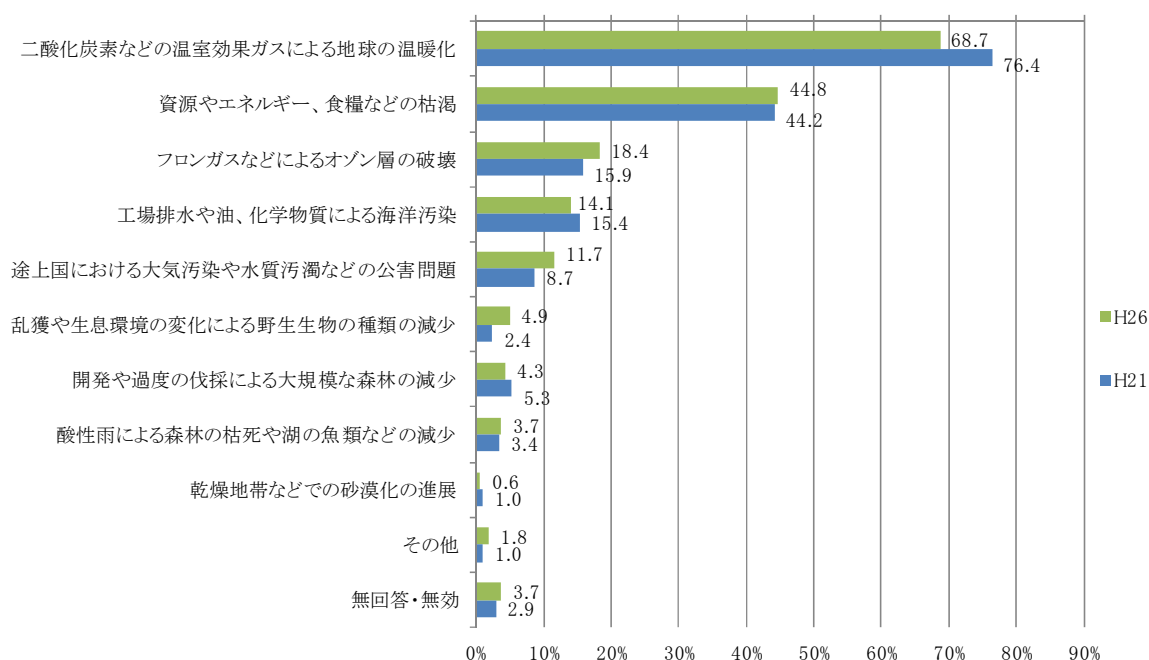


多くの事業者が「法規制を遵守」「日常的に環境配慮に努めている」と回答しており、「環境問題は意識していない」との回答はわずか1件であったことから、事業者の環境意識の高さがうかがえる。

問2 最近の環境問題のうちで、貴事業所が特に関心のあるものは何ですか

①地球規模の環境問題【2つまで】

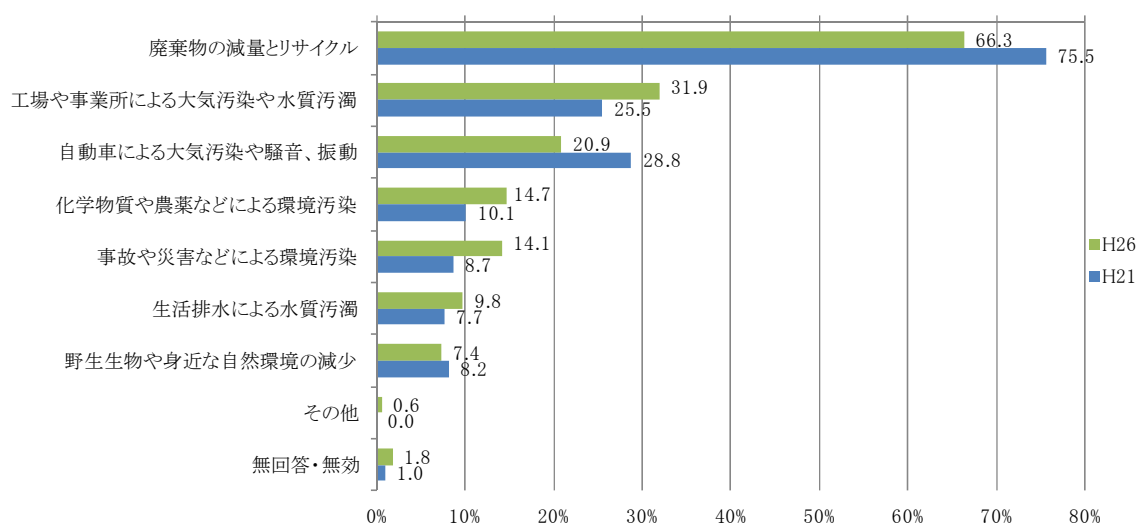
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
二酸化炭素などの温室効果ガスによる地球の温暖化	112 件	68.7%	76.4%
資源やエネルギー、食糧などの枯渇	73 件	44.8%	44.2%
フロンガスなどによるオゾン層の破壊	30 件	18.4%	15.9%
工場排水や油、化学物質による海洋汚染	23 件	14.1%	15.4%
開発途上国における大気汚染や水質汚濁などの公害問題	19 件	11.7%	8.7%
乱獲や生息環境の変化による地球全体での野生生物の種類の減少	8 件	4.9%	2.4%
開発や過度の伐採による熱帯やシベリアなどの大規模な森林の減少	7 件	4.3%	5.3%
酸性雨による森林の枯死や湖の魚類などの減少	6 件	3.7%	3.4%
乾燥地帯などでの砂漠化の進展	1 件	0.6%	1.0%
その他	3 件	1.8%	1.0%
無回答・無効	6 件	3.7%	2.9%
計	288 件	-	-



「地球温暖化」「資源やエネルギー、食糧などの枯渇」に対する関心が高く、それぞれ 68.7%、44.8% の事業者が関心があると回答している。しかし、「地球温暖化」への関心は、前回と比較すると 7.7 ポイント減少しており、前回よりも関心が薄れていることがわかる。また、最も関心が高まっているのは「開発途上国における大気汚染などの公害問題」で、3.0 ポイント増加している。

②国内や周辺地域の環境問題【2つまで】

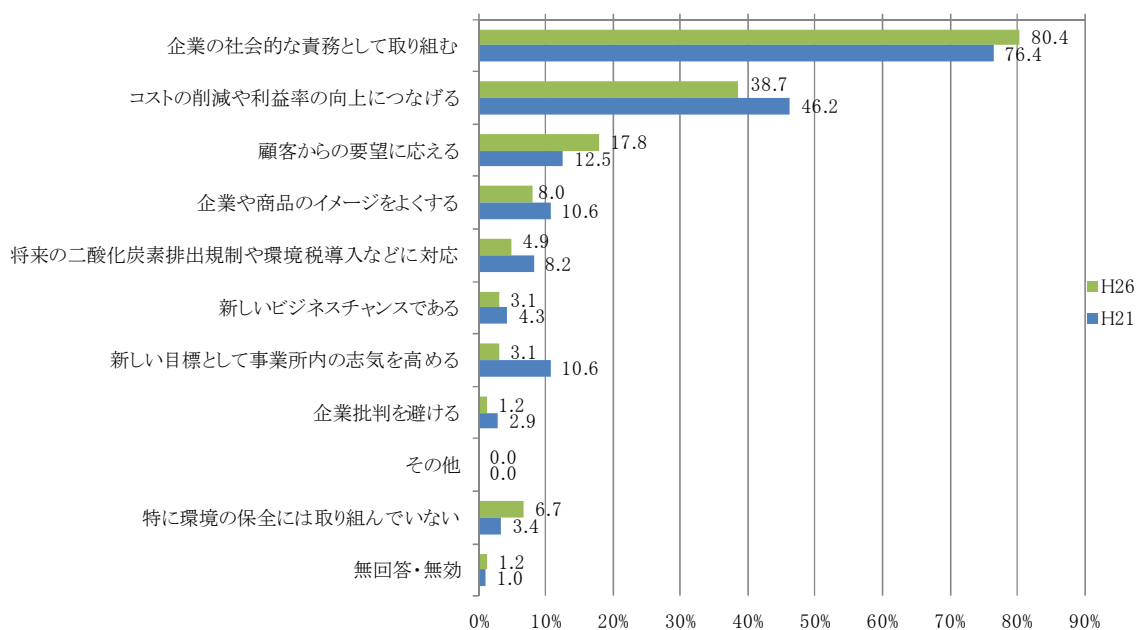
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
廃棄物の減量とリサイクル	108 件	66.3%	75.5%
工場や事業所による大気汚染や水質汚濁	52 件	31.9%	25.5%
自動車による大気汚染や騒音、振動	34 件	20.9%	28.8%
化学物質や農薬などによる環境汚染	24 件	14.7%	10.1%
事故や災害などによる環境汚染	23 件	14.1%	8.7%
生活排水による水質汚濁	16 件	9.8%	7.7%
野生生物や身近な自然環境の減少	12 件	7.4%	8.2%
その他	1 件	0.6%	0.0%
無回答・無効	3 件	1.8%	1.0%
計	273 件	-	-



「廃棄物の減量とリサイクル」に対する関心が最も高く、66.3%の事業者が関心があると回答しているが、前回と比較して大幅（9.2ポイント）に下がっているため、前回よりも廃棄物の減量やリサイクルへの意識が低下していることがうかがえる。一方で、最も関心が高まっているのは「工場や事業所による大気汚染や水質汚濁」で、6.4ポイント増加している。これは、近年光化学スモッグの発生やPM2.5の基準超過が問題となっているため関心が高まっていると考えられる。

問3 貴事業所は、どのような考えから環境の保全に取り組んでいますか【2つまで】

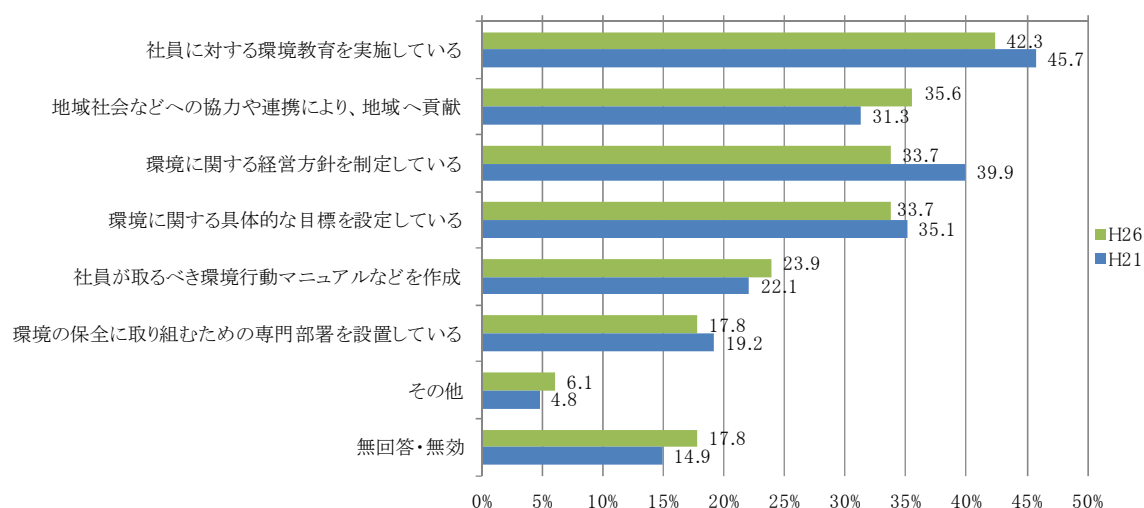
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
企業の社会的な責務として取り組む	131 件	80.4%	76.4%
コストの削減や利益率の向上につなげる	63 件	38.7%	46.2%
顧客からの要望に応える	29 件	17.8%	12.5%
企業や商品のイメージをよくする	13 件	8.0%	10.6%
将来の二酸化炭素排出規制や環境税導入などに対応する	8 件	4.9%	8.2%
新しい目標として事業所内の志気を高める	5 件	3.1%	4.3%
新しいビジネスチャンスである	5 件	3.1%	10.6%
企業批判を避ける	2 件	1.2%	2.9%
その他	0 件	0.0%	0.0%
特に環境の保全には取り組んでいない	11 件	6.7%	3.4%
無回答・無効	2 件	1.2%	1.0%
計	269 件	-	-



「企業の社会的な責務として取り組む」と回答した事業者は8割以上と非常に多く、企業の社会的責任として環境保全に取り組んでいることがわかる。一方で、「特に環境の保全には取り組んでいない」と回答した事業者は、6.7%であり前回から3.3ポイント増加している。

問4 貴事業所では、環境の保全に関して、どのような体制や方針で取り組んでいますか【すべて】

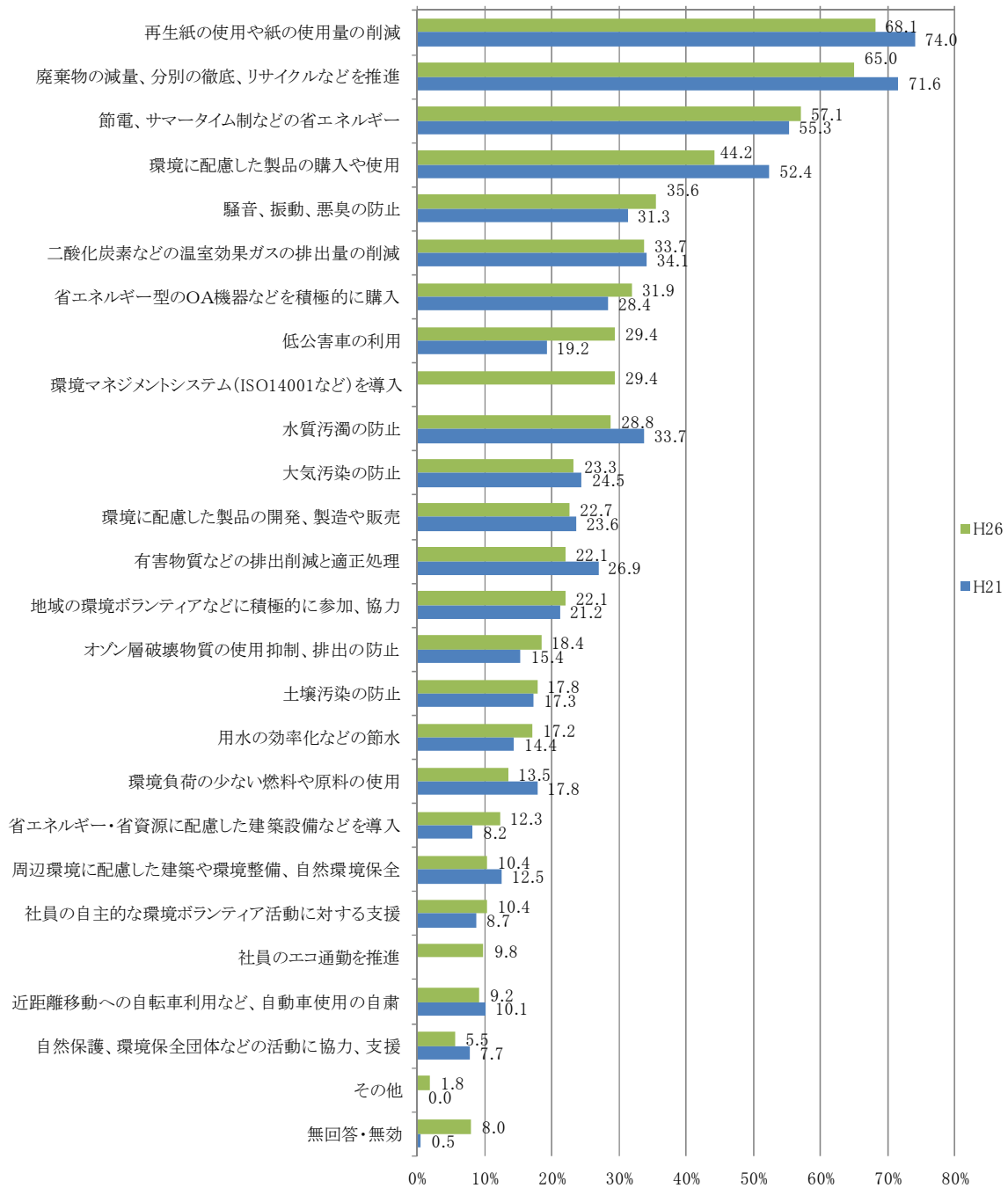
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
社員に対する環境教育を実施している	69 件	42.3%	45.7%
地域社会や周辺住民などへの協力や連携により、地域へ貢献している	58 件	35.6%	31.3%
環境に関する経営方針を制定している	55 件	33.7%	39.9%
環境に関する具体的な目標を設定している	55 件	33.7%	35.1%
社員が取るべき環境に関する行動マニュアルなどを作成している	39 件	23.9%	22.1%
環境の保全に取り組むための専門部署を設置している	29 件	17.8%	19.2%
その他	10 件	6.1%	4.8%
無回答・無効	29 件	17.8%	14.9%
計	344 件	-	-



「社員に対する環境教育を実施している」「地域への貢献」「経営方針を制定している」「目標を設定している」はいずれも3割を超える回答があるが、「無回答・無効」が約2割と多いことから、特に体制や方針を定めていないが、環境の保全に関する取り組みを実施している事業者も多いことがうかがえる。

問5 貴事業所では、環境の保全に関し、具体的にどのような取り組みを行っていますか【すべて】

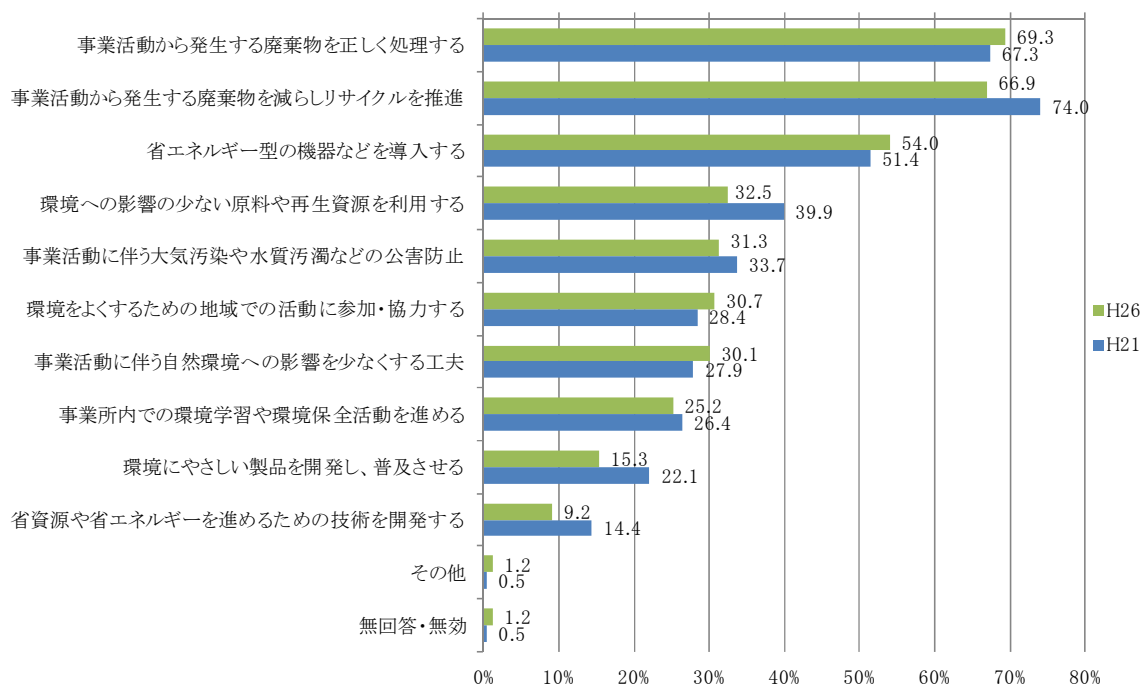
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
再生紙の使用や紙の使用量の削減に取り組んでいる（コピー用紙、コンピューター用紙、封筒など）	111 件	68.1%	74.0%
廃棄物の減量、分別の徹底、リサイクルなどを推進している	106 件	65.0%	71.6%
節電、サマータイム制などの省エネルギーに取り組んでいる	93 件	57.1%	55.3%
環境に配慮した製品（再生品、詰め替え可能な製品など）の購入や使用に努めている	72 件	44.2%	52.4%
騒音、振動、悪臭の防止に努めている	58 件	35.6%	31.3%
二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量の削減に努めている	55 件	33.7%	34.1%
省エネルギー型のOA機器などを積極的に購入している	52 件	31.9%	28.4%
低公害車の利用に取り組んでいる	48 件	29.4%	19.2%
環境マネジメントシステム（ISO14001、エコアクション21など）を導入している <H26 新設>	48 件	29.4%	-
水質汚濁の防止に努めている	47 件	28.8%	33.7%
大気汚染の防止に努めている	38 件	23.3%	24.5%
環境に配慮した製品（再生品、詰め替え可能な製品など）の開発、製造や販売に取り組んでいる	37 件	22.7%	23.6%
有害物質などの排出削減と適正処理を行っている	36 件	22.1%	26.9%
地域の環境ボランティア活動などに積極的に参加、協力、支援などを行っている	36 件	22.1%	21.2%
オゾン層破壊物質の使用抑制、排出の防止に努めている	30 件	18.4%	15.4%
土壌汚染の防止に努めている	29 件	17.8%	17.3%
用水の効率化などの節水に取り組んでいる	28 件	17.2%	14.4%
環境負荷の少ない燃料や原料の使用に努めている	22 件	13.5%	17.8%
省エネルギー・省資源に配慮した建築設備などを導入している（自然エネルギーの活用、二重窓などの断熱性の向上、雨水・中水の利用など）	20 件	12.3%	8.2%
周辺環境に配慮した建築（環境に配慮した工法、緑の修景など）や環境整備、自然環境の保全に努めている	17 件	10.4%	12.5%
社員の自主的な環境ボランティア活動に対する支援を行っている	17 件	10.4%	8.7%
社員のエコ通勤（自転車、公共交通機関等による通勤）を推進している <H26 新設>	16 件	9.8%	-
近距離移動への自転車利用など、自動車使用の自粛に努めている	15 件	9.2%	10.1%
自然保護団体、環境保全団体などの活動に対し、協力、支援などを行っている	9 件	5.5%	7.7%
その他	3 件	1.8%	0.0%
無回答・無効	13 件	8.0%	0.5%
計	1,056 件	-	-



「再生紙の使用や紙の使用量の削減」への取り組みが最も多く、68.1%であった。次いで「廃棄物の減量、分別の徹底、リサイクルなどを推進」が65.0%、「節電、サマータイム制などの省エネルギー」が57.1%であり、いずれもあまり費用をかけずに取り組むことができるものが上位であった。一方で、「社員のエコ通勤を推進」「自動車使用の自粛」がいずれも1割に満たないことから、事業者に対して公共交通や自転車の利用を促進する必要があると考えられる。

問6 貴事業所では、環境の保全に関して、今後どのような取り組みを進めていこうとお考えですか【すべて】

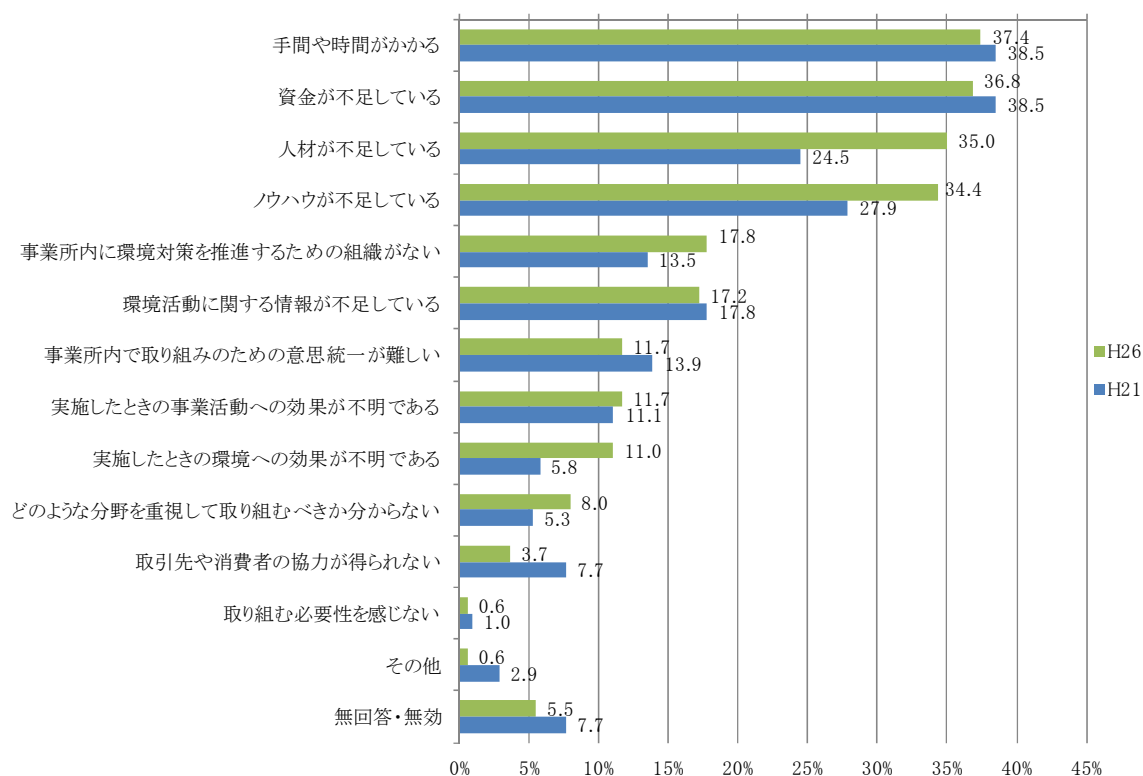
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
事業活動から発生する廃棄物を正しく処理する	113 件	69.3%	67.3%
事業活動から発生する廃棄物を減らし、リサイクルを推進する	109 件	66.9%	74.0%
省エネルギー型の機器などを導入する	88 件	54.0%	51.4%
環境への影響の少ない原料や再生資源を利用する	53 件	32.5%	39.9%
事業活動に伴う大気汚染や水質汚濁などの公害の防止に努める	51 件	31.3%	33.7%
環境をよくするための地域での活動に参加・協力する	50 件	30.7%	28.4%
事業活動に伴う自然環境への影響を少なくするような工夫に努める	49 件	30.1%	27.9%
事業所内での環境学習や環境保全活動を進める	41 件	25.2%	26.4%
環境にやさしい製品を開発し、普及させる	25 件	15.3%	22.1%
省資源や省エネルギーを進めるための技術を開発する	15 件	9.2%	14.4%
その他	2 件	1.2%	0.5%
無回答・無効	2 件	1.2%	0.5%
計	598 件	-	-



「事業活動から発生する廃棄物を正しく処理する」「事業活動から発生する廃棄物を減らしリサイクルを推進」と回答した事業者が6割以上と多く、ごみの適正処理や減量・資源化を推進していく事業者が多い。また、前回と比較すると「環境への影響の少ない減量や再生資源を利用する」が、最も減少(7.4ポイント)している。

問7 貴事業所が、環境保全対策に取り組んでいく上で、障害となるものは何ですか【3つまで】

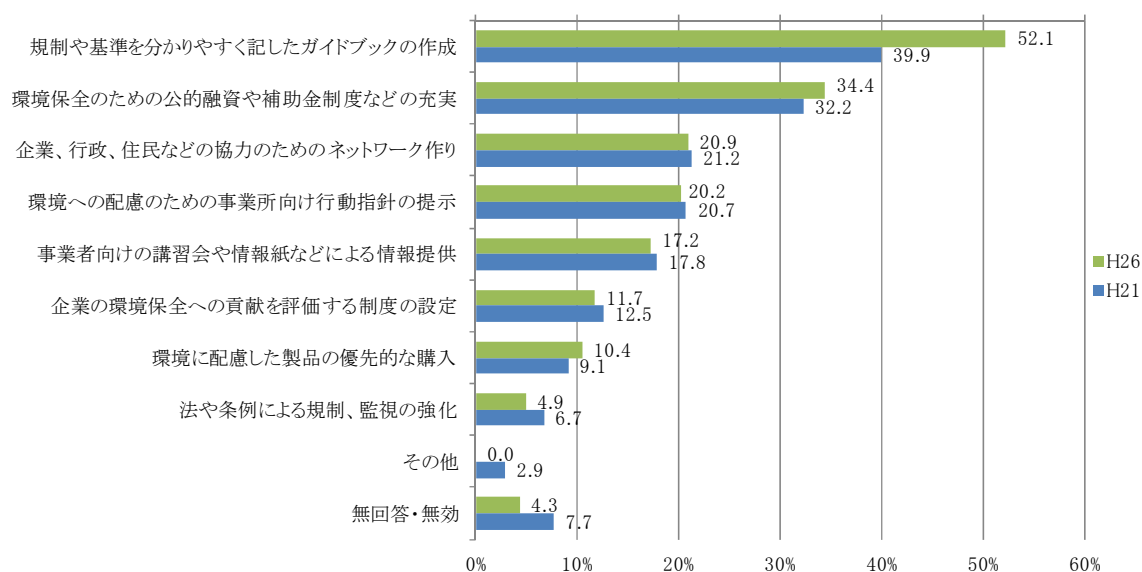
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
手間や時間がかかる	61 件	37.4%	38.5%
資金が不足している	60 件	36.8%	38.5%
人材が不足している	57 件	35.0%	24.5%
ノウハウが不足している	56 件	34.4%	27.9%
事業所内に環境対策を推進するための組織がない	29 件	17.8%	13.5%
環境活動に関する情報が不足している	28 件	17.2%	17.8%
事業所内で取り組みのための意思統一を図るのが難しい	19 件	11.7%	13.9%
実施したときの事業活動への効果が不明である	19 件	11.7%	11.1%
実施したときの環境への効果が不明である	18 件	11.0%	5.8%
どのような分野を重視して取り組むべきか分からない	13 件	8.0%	5.3%
取引先や消費者の協力が得られない	6 件	3.7%	7.7%
取り組む必要性を感じない	1 件	0.6%	1.0%
その他	1 件	0.6%	2.9%
無回答・無効	9 件	5.5%	7.7%
計	377 件	-	-



「手間や時間がかかる」「資金が不足している」がそれぞれ 37.4%、36.8%と多かった。「人材が不足している」「ノウハウが不足している」は前回と比較して大幅に増加し、それぞれ 35.0%、34.4%であった。このことから、環境保全対策に関する知識を持った人材の育成が必要であると考えられる。

問8 貴事業所が、環境保全対策に取り組んでいく上で、市の環境行政にどのような施策を期待しますか【2つまで】

選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
規制や基準を分かりやすく記したガイドブックの作成	85 件	52.1%	39.9%
環境保全のための公的融資や補助金制度などの充実	56 件	34.4%	32.2%
企業、行政、民間団体、住民などの協力のためのネットワークづくり	34 件	20.9%	21.2%
環境への配慮のための事業所向け行動指針などの提示	33 件	20.2%	20.7%
事業者向けの講習会や情報紙などによる情報提供	28 件	17.2%	17.8%
企業の環境保全への貢献を評価する制度の設定	19 件	11.7%	12.5%
環境に配慮した製品（再生品、詰め替え可能な製品など）の優先的な購入	17 件	10.4%	9.1%
法や条例による規制、監視の強化	8 件	4.9%	6.7%
その他	0 件	0.0%	2.9%
無回答・無効	7 件	4.3%	7.7%
計	287 件	-	-

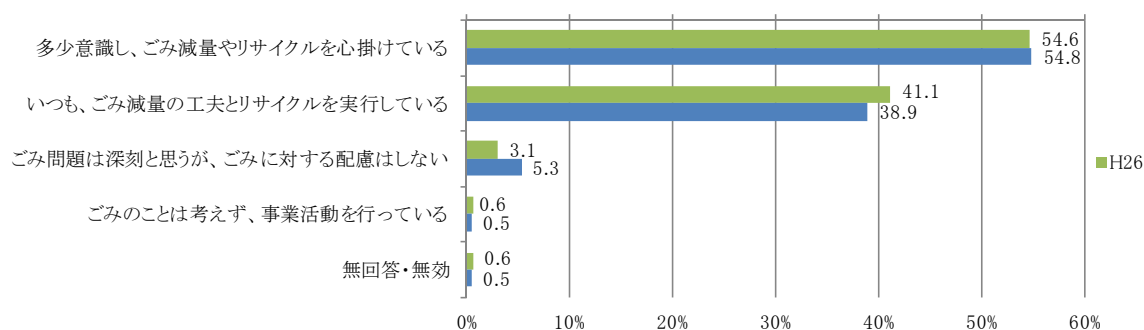


最も多くの回答があった「規制や基準を分かりやすく記したガイドブックの作成」が、前回より大幅（12.2ポイント）に増加しており、多くの事業者が事業に関連する法令の規制などが分かり辛いと感じていることがわかる。次いで、「環境保全のための公的融資や補助金制度などの充実」との回答が34.4%と多く、環境保全対策に取り組むうえで、資金の確保が重要であることがわかる。一方で、「法や条例による規制、監視の強化」が4.9%と前回と比較しても1.8ポイント下がっており、法や条例による規制や監視は現状で十分されていると感じていることがうかがえる。

■ ごみ（事業系一般廃棄物）処理のことについておたずねします

問9 貴事業所は、事業活動の中で、ごみとどのように関わっていますか

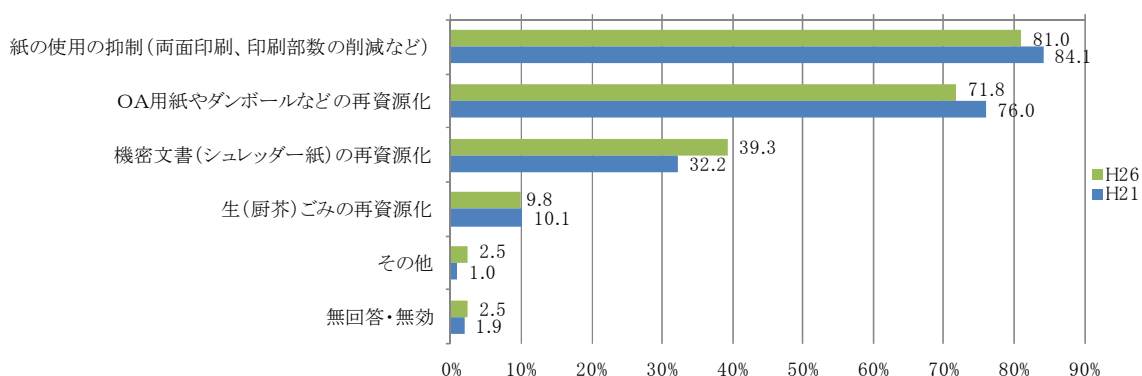
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
多少意識して、ごみを少なくする配慮やリサイクルを心掛けている	89 件	54.6%	54.8%
いつも、ごみを少なくする工夫とリサイクルを実行している	67 件	41.1%	38.9%
ごみの問題は深刻だと思いながらも、ごみに対する配慮はせずに事業活動を行っている	5 件	3.1%	5.3%
ごみのことは考えず、事業活動を行っている	1 件	0.6%	0.5%
無回答・無効	1 件	0.6%	0.5%
計	163 件	100.0%	100.0%



「多少意識し、ごみ減量やリサイクルを心掛けている」「いつも、ごみ減量の工夫とリサイクルを実行している」と回答した事業者は、合計で 95.7%であった。ほとんどの事業者がごみ減量に対して意識が高いことがわかる。

問 10 貴事業所は、ごみの減量・リサイクルのためにどのようなことに取り組まれていますか
【すべて】

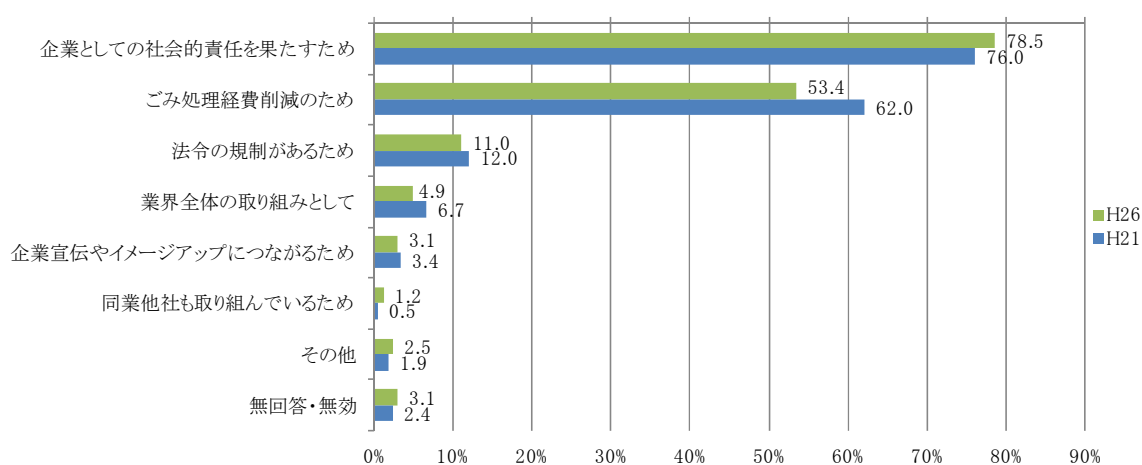
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
紙の使用の抑制（両面印刷、使用済み封筒の再利用、印刷部数の削減など）	132 件	81.0%	84.1%
OA用紙やダンボールなどの再資源化（古紙回収業者などのリサイクルルートに回す）	117 件	71.8%	76.0%
機密文書（シュレッダー紙）の再資源化	64 件	39.3%	32.2%
生（厨芥）ごみの再資源化	16 件	9.8%	10.1%
その他	4 件	2.5%	1.0%
無回答・無効	4 件	2.5%	1.9%
計	337 件	-	-



「紙の使用の抑制」「OA用紙やダンボールなどの再資源化」「機密文書の再資源化」と回答した事業者が多く、紙の使用抑制に対する取り組み易さや、紙資源のリサイクルルートがしっかりと確立していることがうかがえる。

問 11 貴事業所が、ごみの減量・リサイクルに取り組まれる理由は何ですか【2つまで】

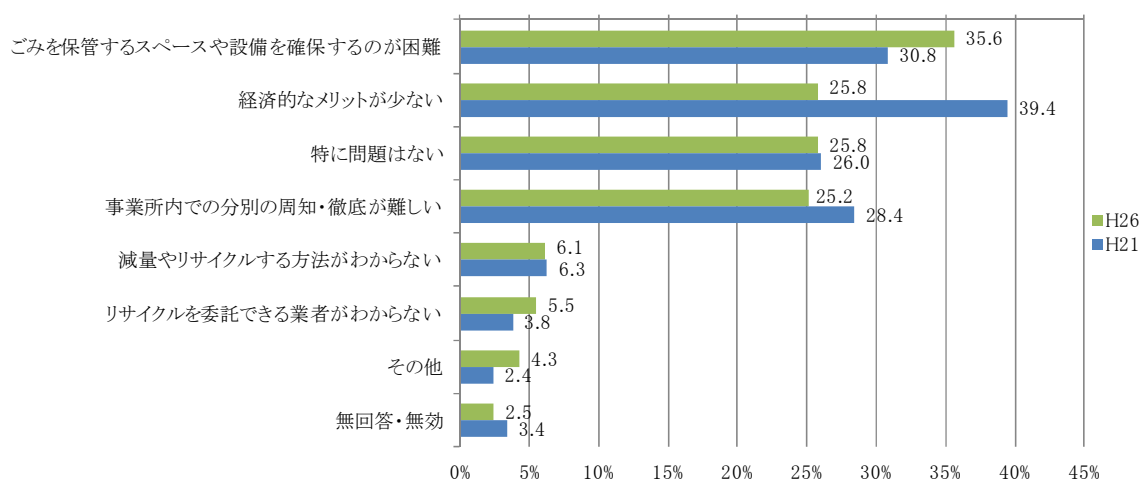
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
企業としての社会的責任を果たすため	128 件	78.5%	76.0%
ごみ処理経費削減のため	87 件	53.4%	62.0%
法令の規制があるため	18 件	11.0%	12.0%
業界全体の取り組みとして	8 件	4.9%	6.7%
企業宣伝やイメージアップにつながるため	5 件	3.1%	3.4%
同業他社も取り組んでいるため	2 件	1.2%	0.5%
その他	4 件	2.5%	1.9%
無回答・無効	5 件	3.1%	2.4%
計	257 件	-	-



「企業としての社会的責任を果たすため」と回答した事業者が 78.5%と最も多かった。次いで「ごみ処理経費削減のため」が 53.4%と多いが、前回と比較して 8.6ポイント下がっていた。事業者として、コストの削減よりも社会的責任によりごみ減量等に取り組んでいることがわかる。

問 12 貴事業所は、ごみの減量やリサイクルを行う場合の問題点は何だと思いますか【2つまで】

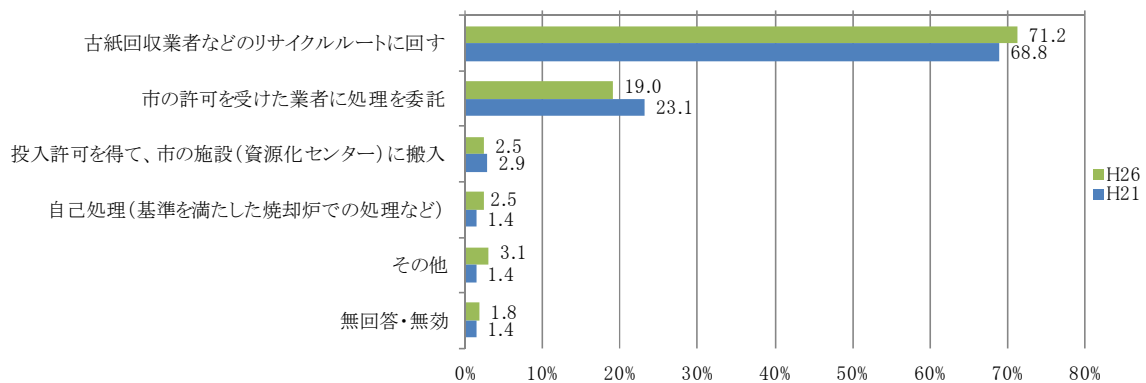
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
リサイクルするためにごみを保管するスペースや設備を確保するのが困難	58 件	35.6%	30.8%
経済的なメリットが少ない	42 件	25.8%	39.4%
特に問題はない	42 件	25.8%	26.0%
事業所内での分別の周知・徹底が難しい	41 件	25.2%	28.4%
減量やリサイクルする方法がわからない	10 件	6.1%	6.3%
リサイクルを委託できる業者がわからない	9 件	5.5%	3.8%
その他	7 件	4.3%	2.4%
無回答・無効	4 件	2.5%	3.4%
計	213 件	-	-



「ごみを保管するスペースなどの確保が困難」と回答した事業者が前回と比較して 4.8 ポイント増加して 35.6%と最も多かった。次いで「経済的なメリットが少ない」が 25.8%と多いが、前回と比較して 13.6 ポイント下がっていた。メリットよりも場所の確保という物理的な問題を抱えている事業者が多いことがわかる。一方で、「特に問題はない」と 2 割以上の事業者が回答している。

問 13 貴事業所は、新聞やダンボールなどの古紙をどのように処理されていますか

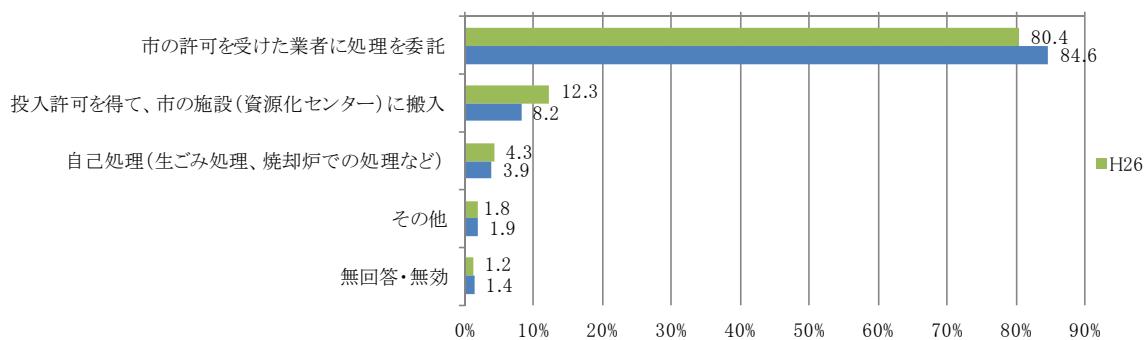
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
古紙回収業者などのリサイクルルートに回す	116 件	71.2%	68.8%
市の許可を受けた業者に処理を委託	31 件	19.0%	23.1%
投入許可を得て、市の施設（資源化センター）に搬入	4 件	2.5%	2.9%
自己処理（基準を満たした焼却炉での処理など）	4 件	2.5%	1.4%
その他	5 件	3.1%	1.4%
無回答・無効	3 件	1.8%	1.4%
計	163 件	100.0%	100.0%



「古紙回収業者などのリサイクルルートに回す」「市の許可業者に処理を委託」との回答が約 9 割と、ほとんどの事業者が業者への委託等により処理していることがわかる。また、「許可業者に処理を委託」が前回より 4.1 ポイント下がっており、「リサイクルルートに回す」が 2.4 ポイント増加していることから、リサイクルに対する意識の高まりがうかがえる。

問 14 貴事業所は、古紙以外のごみをどのように処理されていますか

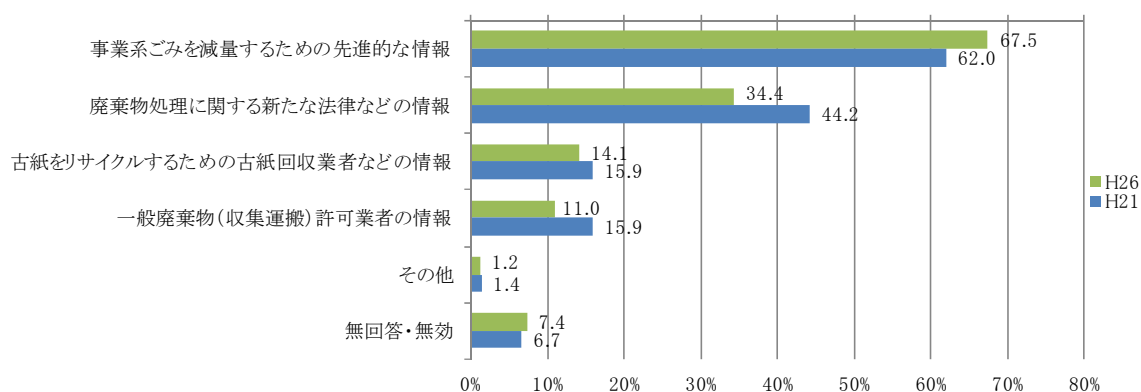
選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
市の許可を受けた業者に処理を委託	131 件	80.4%	84.6%
投入許可を得て、市の施設（資源化センター）に搬入	20 件	12.3%	8.2%
自己処理（業務用の生ごみ処理、基準を満たした焼却炉での処理など）	7 件	4.3%	3.9%
その他	3 件	1.8%	1.9%
無回答・無効	2 件	1.2%	1.4%
計	163 件	100.0%	100.0%



「市の許可業者に処理を委託」と回答した事業者が約 8 割であった。多くの事業者が許可業者へ処理を委託していることがわかる。

問 15 貴事業所は、本市からのごみに関する情報で何を希望しますか【2つまで】

選 択 肢	今回 (H26)		前回 (H21)
	件 数	比 率	比 率
事業系ごみを減量するための先進的な情報	110 件	67.5%	62.0%
廃棄物処理に関する新たな法律などの情報	56 件	34.4%	44.2%
古紙をリサイクルするための古紙回収業者などの情報	23 件	14.1%	15.9%
一般廃棄物（収集運搬）許可業者の情報	18 件	11.0%	15.9%
その他	2 件	1.2%	1.4%
無回答・無効	12 件	7.4%	6.7%
計	221 件	-	-



「事業系ごみを減量するための先進的な情報」と回答した事業者が最も多く、前回と比較して 5.5 ポイント増加している。それ以外の選択肢（「無回答・無効」を除く）は、いずれも前回と比較して減少していることから、ごみ減量に関する情報提供を積極的に行うことが必要であると考えられる。